

終戦事務情報

第二號

目次

一、「ポツダム」宣言.....	一
二、「ポツダム」宣言受諾経緯概説.....	二
三、御詔書、降伏文書一般命令第一號概説.....	三
(イ) 御詔書.....	三
(ロ) 降伏文書及降伏文書ニ關スル説明.....	三
(ハ) 一般命令第一號(陸海軍)(指令第一號).....	七
四、指令第二、第三號.....	一〇
五、降伏後ニ於ケル米國ノ初期ノ對日方針.....	二

第二号

終戦連絡中央事務局總務部第一課

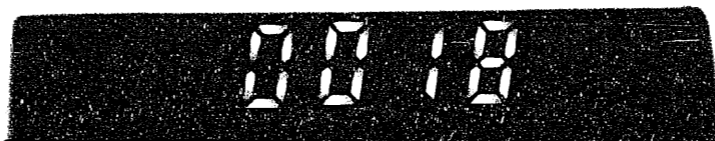


一、本情報ハ終戦連絡事務關係資料ヲ蒐録シ以テ關係各方面ノ
執務參考ニ供スルヲ以テ目的トス

一、右目的ニ添ハシムル爲、週報等定期刊行ノ形式ヲ採ラズ、
必要ニ應ジ隨時之ヲ刊行シ以テ中央事務局及地方事務局其
ノ他關係機關ニ配布スルモノトス

0013

RA'-0008



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

一、「ボツダム」米、英、支三國宣言

(千九百四十五年七月二十六日「ボツダム」ニ於テ)

一 吾等合衆國大統領、中華民國政府主席及「グレート・ブリテン」國總理大臣ハ吾等ノ數億ノ國民ヲ代表シ協議シ上日本國ニ對シ今次ノ戰爭ヲ終結スルノ機會ヲ與フルコトニ意見一致セリ

二 合衆國、英帝國及中華民國ノ巨大ナル陸、海、空軍ハ西方ヨリ自國ノ陸軍及空軍ニ依ル數倍ノ増強ヲ受ケ日本國ニ對シ最後の打撃ヲ加フルノ態勢ヲ整ヘタリ右軍事力ハ日本國ガ抵抗ヲ終止スルニ至ル迄同國ニ對シ戰爭ヲ遂行スルノ一切ノ聯合國ノ決意ニ依リ支持セラレ且鼓舞セラレ居ルモノナリ

三 歐起セル世界ノ自由ナル人民ノ力ニ對スル「ドイツ」國ノ無益且無意義ナル抵抗ノ結果ハ日本國國民ニ對スル先例ヲ極メテ明白ニ示スモノナリ現在日本國ニ對シ集結シツツアル力ハ抵抗スル「ナチス」ニ對シ適用セラレタル場合ニ於テ全「ドイツ」國人民ノ土地、産業及生活様式ヲ必然的ニ荒廢ニ歸セシメタル力ニ比シ測リ知レザル程更ニ強大ナルモノナリ吾等ノ決意ニ支持セラルル吾等ノ軍事力ノ最高度ノ使用ハ日本國軍隊ノ不可避且完全ナル毀滅ヲ意味スベク又同様必然的ニ日本國本土ノ完全ナル破壊ヲ意味スベシ

四 無分別ナル打算ニ依リ日本帝國ヲ滅亡ノ淵ニ陥レタル我儘ナル軍國主義的助言者ニ依リ日本國ガ引續キ統御セラルベキカ又ハ理性ノ經路ヲ日本國ガ履ムベキカヲ日本國ガ決定スベキ時期ハ到來セリ

五 吾等ノ條件ハ左ノ如シ

吾等ハ右條件ヨリ離脱スルコトナカルベシ右ニ代ル條件存在セズ

0014

吾等ハ遲延ヲ認ムルヲ得ズ

六 吾等ハ無責任ナル軍國主義ガ世界ヨリ驅逐セララルニ至ル迄ハ平和安全及正義ノ新秩序ガ生ジ得ザルコトヲ主張スルモノナルヲ以テ日本國國民ヲ欺瞞シ之ヲシテ世界征服ノ舉ニ出ツルノ過誤ヲ犯サシメタル者ノ權力及勢力ハ永久ニ除去セラレザルベカラズ

七 右ノ如キ新秩序ガ建設セラレ且日本國ノ戰爭遂行能力ガ破碎セラレタルコトノ確證アルニ至ル迄ハ聯合國ノ指定スベキ日本國領域内ノ諸地點ハ吾等ノ茲ニ指示スル根本的目的ノ達成ヲ確保スル爲メ占領セララルベシ

八 「カイロ」宣言ノ條項ハ履行セララルベク又日本國ノ主權ハ本州、北海道、九州及四國並ニ吾等ノ決定スル諸小島ニ局限セララルベシ

九 日本國軍隊ハ完全ニ武装ヲ解除セラレタル後各自ノ家庭ニ復歸シ平和的且生産的ノ生活ヲ營ムノ機會ヲ得シメラルベシ

十 吾等ハ日本人ヲ民族トシテ奴隸化セントシ又ハ國民トシテ滅亡セシメントスルノ意圖ヲ有スルモノニ非ザルモ吾等ノ俘虜ヲ虐待セル者ヲ含ム一切ノ戰爭犯罪人ニ對シテハ嚴重ナル處罰ヲ加ヘラルベシ日本國政府ハ日本國國民ノ間ニ於ケル民主主義的傾向ノ復活強化ニ對スル一切ノ障礙ヲ除去スベシ言論、宗教及思想ノ自由並ニ基本的人權ノ尊重ハ確立セララルベシ

十一 日本國ハ其ノ經濟ヲ支持シ且公正ナル實物賠償ノ取立ヲ可能ナラシムルガ如キ産業ヲ維持スルコトヲ許サルベシ但シ日本國ヲシテ戰爭ノ爲軍備ヲ爲スコトヲ得シムルガ如キ産業ハ此ノ限ニ在ラズ右目的ノ爲原料ノ入手(其ノ支配トハ之ヲ區別シ)ヲ許可サルベシ日本國ハ將來世界貿易關係ヘノ参加ヲ許サルベシ

十二 前記諸目的ガ達成セラレ且日本國國民ノ自由ニ表明セル意思ニ從

「参考」「カイロ」宣言

(千九百四十二年十一月二十七)

「カイロ」宣言ハ、大總統、蔣介石大元帥及「チャーチル」總理大臣ハ各自ノ軍事及外交顧問ト共ニ北「アフリカ」ニ於テ會議ヲ終了シ左ノ一般的聲明發セラレタリ

「各軍事使節ハ日本國ニ對スル將來ノ軍事行動ヲ協定セリ

三大同盟國ハ海路、陸路及空路ニ依リ其ノ野蠻ナル敵國ニ對シ假借ナキ彈壓ヲ加フルノ決意ヲ表明セリ右彈壓ハ既ニ増大シツツアリ

三大同盟國ハ日本國ノ侵略ヲ制止シ且之ヲ罰スル爲メ今次ノ戰爭ヲ爲シツツアルモノナリ右同盟國ハ自國ノ爲メ何等ノ利得ヲモ欲スルモノニ非ズ又領土擴張ノ何等ノ念ヲモ有スルモノニ非ズ

右同盟國ノ目的ハ日本國ヨリ千九百十四年ノ第一次世界戰爭ノ開始以後ニ於テ日本國ガ奪取シ又ハ占領シタル太平洋ニ於ケル一切ノ島嶼ヲ剝奪スルコト並ニ滿洲、臺灣及澎湖島ノ如キ日本國ガ清國人ヨリ盜取シタル一切ノ地域ヲ中華民國ニ返還スルコトニ在リ日本國ハ又暴力及貪慾ニ依リ日本國ガ略取シタル他ノ一切ノ地域ヨリ驅逐セララルベシ前記三大國ハ朝鮮ノ人民ノ奴隸狀態ニ留意シ總テ朝鮮ヲ自由且獨立ノ

二、「ボツダム」宣言受諾經緯概説

モノヲラシムルノ決意ヲ有ス

右ノ目的ヲ以テ右三同盟國ハ同盟諸國中日本國ト交戦中ナル諸國ト協調シ日本國ノ無條件降伏ヲ齎スニ必要ナル重大且長期ノ行動ヲ續行スベシ

本年七月ニ入ルヤ帝國政府ヲ總ル情勢ハ益々惡化シ、最悪ノ事態ニ立到リ、交戦ノ繼續ハ激烈ナル破壊ト慘酷ナル殺戮トノ極マル所途ニ我民族生存ノ根據ヲ奪フノミナラズ、人類文化ノ大本ヲ滅却スルニ到ルコト必然トナリタリ

斯クテ政府ハ、畏クモ一億萬ノ康寧ト人類ノ福祉トヲ深ク御念セララルル 天皇陛下ノ大御心ヲ體シ、之ニ副ヒ奉ルベク八月九日以來軍統帥部トモ連絡シ、慎重ナル熟議ヲ重ネ御聖斷ヲ仰ギタル結果、八月十日拂曉ノ閣議ニ於テ「ボツダム」宣言ハ國體ヲ變更スルノ要求ヲ包含シ居ラズトノ趣旨ノ了解ヲ明ニシテ右宣言ヲ受諾スルコトニ決定セリ。依テ八月十日中立國タル瑞西及瑞典國政府ニ對シ本次第ヲ米、英、蘇、支四國ニ傳達シ右了解ニ關スル先方ノ回答ヲ要請方依頼セリ。四國政府ノ回答ニ接スルヤ、帝國政府ハ回答ノ條項ガ帝國國體ノ護持ト矛盾セザルヤニ付慎重檢討ヲ加ヘ、八月十四日御前會議ニ於テ御聖斷ヲ仰ギタル結果、同日午後ノ閣議ニ於テ帝國政府ハ「ボツダム」共同宣言ニ舉ゲラレタル條件ヲ受諾、之ヲ實施スルコトニ決定シ、畏クモ 天皇陛下ニ於カセラレテハ、昭和二十年八月十四日附ヲ以テ「ボツダム」宣言ノ條項受諾ニ關スル大詔ヲ頒發セラレタリ。右帝國政府ノ決定ハ同日附ヲ以テ瑞西國政府ヲ通ジ米、英、蘇、支四國政府ニ傳達セラレタリ。

RA'-0008

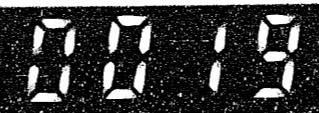
外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan



三 御詔書、降伏文書一般命令 第一號概説

帝國政府ヨリ「ボツダム」宣言ノ條項受諾及右ニ關スル大詔發セラレタル通報米國政府ニ到達スルヤ、米國側ヨリ降伏條項實施ノ爲ノ一定要求事項ヲ受理スル權限ヲ有スル代表者ヲ比島へ差遣方要求シ來レルニ付、河邊陸軍中將ハ全權トシテ比島ニ赴キ八月十九日主トシテ聯合國軍ノ本土進駐並ニ我軍ノ武装解除ニ關スル事項ニ付先方ト會談セリ、續イテ八月二十日河邊全權ト聯合國側トノ會談ニ於テ、聯合國最高司令官及其ノ隨行部隊ノ東京灣内及鹿屋飛行場地域へノ進駐ヲ容易ナラシムルヲメ、聯合國最高司令官ノ要求事項ヲ記載セル文書並ニ歸京後帝國政府ニ傳達スベキ日本國天皇ノ御詔書降伏文書及陸海軍一般命令第一號ヲ受領セリ。日本國天皇ノ御詔書ノ概要ハ天皇ガ「ボツダム」宣言ノ條項ヲ受諾スルト共ニ、帝國政府及帝國大本營ニ對シ天皇ニ代リ聯合國最高司令官ヨリ提出セラレタル降伏文書ニ署名スルコトヲ命ジ、且同司令官ノ指示ニ基キ帝國政府及帝國大本營ニ對シ陸海軍ニ宛テ一般命令ヲ發スベキコトヲ命ジ帝國臣民ニ對シテ敵對行爲ヲ終止シ降伏文書並ニ一般命令ノ一切ノ規定ヲ誠實ニ履行スベキコトヲ命ゼルモノナリ。

降伏文書(ハ)「ボツダム」宣言ノ條項受諾ノ確認。(ロ)帝國軍隊ノ無條件降伏。(ハ)一切ノ日本軍及日本國民ノ敵對行爲ノ終止及軍用非軍用財産ノ毀損防止。(ニ)一切ノ陸海軍人及行政官廳官吏ノ離職制限。(ホ)天皇帝國政府其ノ後繼者ノ「ボツダム」宣言條項履行確約。(ヘ)聯合國俘虜及被拘留者ノ解放及保護ノ内容トスト共ニ未項ニ於テ天皇及帝國政府ノ國家統治ノ權限カ「ボツダム」宣言ノ條項實施ノ爲適當ト認

ムル措置ヲ執ルベキ聯合國最高司令官ノ制限ノ下ニ置カルベキコトヲ規定スルモノナリ。

陸海軍ニ對スル一般命令ハ一切ノ日本軍ニ對シ戦闘ヲ停止シ武装ヲ解除シ無條件降伏スベキ聯合國軍方々何國ナルヤラ規定シ、更ニ日本軍隊軍施設並ニ俘虜及被拘留者ニ關スル一切ノ情報供與等ヲ命ジタルモノナリ。

1 詔書

朕ハ昭和二十年七月二十六日米、英、支各國政府ノ首班カ「ボツダム」ニ於テ發シ後ニ蘇聯邦カ參加シタル宣言ノ揭クル諸條項ヲ受諾シ帝國政府及大本營ニ對シ聯合國最高司令官カ提示シタル降伏文書ニ朕ニ代リ署名シ且聯合國最高司令官ノ指示ニ基キ陸海軍ニ對スル一般命令ヲ發スヘキコトヲ命シ朕ハ朕カ臣民ニ對シ敵對行爲ヲ直ニ止メ武器ヲ捨キ且降伏文書ノ一切ノ條項並ニ帝國政府及大本營ノ發スル一般命令ヲ誠實ニ履行セムコトヲ命ス

御名 御璽

昭和二十年九月二日

内閣總理大臣
各國務大臣

(ロ) 降伏文書

下名ハ茲ニ合衆國、中華民國及「グレートブリテン」國ノ政府ノ首班カ千九百四十五年七月二十六日「ボツダム」ニ於テ發シ後ニ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ガ參加シタル宣言ノ條項ヲ日本國天皇、日本國政府及日本帝國大本營ノ命ニ依リ且之ニ代リ受諾ス。右四國ハ以下之ヲ

聯合國ト稱ス。

下名ハ茲ニ日本帝國大本營並ニ何レノ位置ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本國軍隊及日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ軍隊ノ聯合國ニ對スル無條件降伏ヲ宣告ス。

下名ハ茲ニ何レノ位置ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本國軍隊及日本國臣民ニ對シ敵對行爲ヲ直ニ終止スルコト、一切ノ船舶、航空機並ニ軍用及非軍用財産ヲ保存シ之ガ毀損ヲ防止スルコト、及聯合國最高司令官又ハ其ノ指示ニ基キ、日本國政府ノ諸機關ノ課スベキ一切ノ要求ニ應ズルコトヲ命ス。

下名ハ茲ニ日本帝國大本營ガ何レノ位置ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本國軍隊及日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ軍隊ノ指揮官ニ對シ自身及其ノ支配下ニ在ル一切ノ軍隊ガ無條件ニ降伏スベキ旨ノ命令ヲ直ニ發スルコトヲ命ズ。

下名ハ茲ニ一切ノ官廳、陸軍及海軍ノ職員ニ對シ聯合國最高司令官ガ本降伏實施ノ爲適當ナリト認メテ自ラ發シ又ハ其ノ委任ニ基キ發セシムル一切ノ布告、命令及指示ヲ遵守シ且之ヲ施行スルコトヲ命ジ並ニ右職員ガ聯合國最高司令官ニ依リ又ハ其ノ委任ニ基キ特ニ任務ヲ解カレザル限リ各自ノ地位ニ留リ且引續キ各自ノ非戰鬥的任務ヲ行フコトヲ命ズ。

下名ハ茲ニ「ボツダム」宣言ノ條項ヲ誠實ニ履行スルコト並ニ右宣言ヲ實施スル爲聯合國最高司令官又ハ其ノ他特定ノ聯合國代表者ガ要求スルコトアルベキ一切ノ命令ヲ發シ且斯ル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ天皇、日本國政府及其ノ後繼者ノ爲ニ約ス。

下名ハ茲ニ日本帝國政府及日本帝國大本營ニ對シ現ニ日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ聯合國俘虜及被拘留者ヲ直ニ解放スルコト並ニ其ノ保護、手當、給養及指示セラレタル場所へノ即時輸送ノ爲ノ措置ヲ執ルコトヲ命

ズ。

天皇及日本國政府ノ國家統治ノ權限ハ本降伏條項ヲ實施スル爲適當ト認ムル措置ヲ執ル聯合國最高司令官ノ制限ノ下ニ置カルモノトス。

千九百四十五年九月二日午前九時四分日本國東京灣上ニ於テ署名ス。大日本帝國天皇陛下及日本國政府ノ命ニ依リ且其ノ名ニ於テ

重光葵
日本帝國大本營ノ命ニ依リ且其ノ名ニ於テ
梅津美治郎

- 千九百四十五年九月二日午前九時八分日本國東京灣上ニ於テ合衆國、中華民國、聯合王國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ爲ニ茲ニ日本國ト戰爭狀態ニ在ル他ノ聯合諸國家ノ利益ノ爲ニ受諾ス。
- 聯合國最高司令官 ダグラス、マックアーサー
合衆國代表者 シー、ダブリュー、ニミッツ
中華民國代表者 除、永、昌
聯合王國代表者 ブルース、フレトザー
「ソヴィエト」社會主義共和國代表者 クズマ、エヌ、ヂェレヴィヤンコ
「オーストラリア」聯邦代表者 ティー、ユー、ブレイミー
「カナダ」代表者 エル、コスグレイヴ
「フランス」國代表者 ジャック、ル、グレルク
「オランダ」國代表者 シェルフ、ヘルブリッヒ
「ニュー、ジージーランド」代表者 エス、エム、イシット

「參考」降伏文書ニ關スル説明

本説明ハ一應ノ解釋ヲ與ヘタルモノニシテ、其ノ後ノ事變ノ進展及ビ新事實ノ發

展ニ伴ヒ、多少ノ變更ヲ加フベキ點アリ。又法律論トシテ議論ノ餘地ヲ存スル點アルモ、大方ノ參考ニ供スル爲メ未定稿ノ儘印刷ニ附セルモノナリ。

一、Instrument of Surrenderノ成立経緯

降伏文書ハ八月十四日帝國政府ガ「ボツダム」宣言條項受諾ノ申入ニ對シ、米、英、蘇、支ノ四國ヲ代表シ聯合國最高司令官ニ任命セラレタル「マックアーサー」ヨリ帝國政府及帝國大本營ニ提示セラレタルモノナリ、右文書ハ全ク聯合國側ノミソノ作成ニ與リタルモノニシテ帝國ハ單ニ之ヲ提示セラレタルニ過ギズシテ我方ノ意向ハ何等多酌シ居ラレズ。

二、降伏文書ノ形式

イ、本降伏文書ノ署名ハ日本國全權及聯合國全權何レモ之ヲ爲シ居ルモノ日本國側署名ハ聯合國署名ト別個ニ爲サレ聯合國側署名ノ前ニ單ニ右我方ノ提出セル内容ヲ受諾スル旨ヲ記入シ居ルニ過ギザルコト。ロ、帝國全權トシテ帝國政府代表ト帝國大本營代表ト署名シ居ルコト。

ハ、降伏文書正文ノ聯合國側署名振ラ見ルニ聯合國最高司令官「ダグラス・マックアーサー」ノミ離レテ署名シ他ハ一段異リケル場所ニ署名シ居ルコト。

右三點ハ本降伏文書ノ形式ノ特殊性ヲ示ス重大ナル點ト認メラル

三、降伏文書ノ内容

降伏文書ハ八項ヨリ成リ居リ以下各項ノ内容ニ基キ説明ヲ加ヘントス
イ、「下名ハ茲ニ合衆國、中華民國及「グレート・ブリテン」國ノ政府ノ首班カ千九百四十五年七月二十六日「ボツダム」ニ於テ發シ後ニ「ソウヴェット」社會主義共和國聯邦ガ参加シタル宣言ノ條項ヲ日本國天皇、日本國政府及日本帝國大本營ノ命ニ依リ且之ニ代リ受諾ス

右四國ハ以下ノ聯合國ト稱ス
本項ハ今次終戰交渉ノ眼目ニシテ本項ニ依リ正式ニ「ボツダム」宣言條項受諾ヲ正式ニ確認セルモノト言フベシ。

本項ニ於テ注目スベキハ左ノ二點ナリ
1、「日本國天皇、日本國政府及日本帝國大本營ノ命ニ依リ且之ニ代リ」ト爲シ 天皇ト政府及大本營トヲ同列ニ置クガ如キ書キ振リナル點ナリ、本點ニ付テハ聯合國最高司令官ニ其ノ不合理ナル所以ヲ説明シ同司令官モ之ヲ認メタルモ既ニ正式印刷セラレ且改正ノ時間的餘猶ナカリシ爲メ遂ニソノ儘署名公表セララルコトナリタリ。

右経緯ヨリ察スルニ聯合國側ノ日本國內組織ノ認識不充分ニ基クモノト解セラル。尤モ聯合國ハ之ニ依リ日本帝國政府及日本帝國大本營ヲ天皇ノ下ニ於テ「ボツダム」宣言ノ條項ヲ受諾シ直接責任ヲ有スルコトヲ明カニセント意圖シ特ニ實際上ノ責任ヲ負擔スル政府及大本營ヲ列記シタルモノトモ認メラル。

2、本項ニ於テ米、英、蘇、支ノ四國ガ他ノ聯合國ト異ル地位ニ在ルコトヲ明カニセルモノト認メラル。本項ニ依リ帝國ノ降伏ハ右四ヶ國ニ對シ爲サレタルモノナルコト及本文書ニ署名セル其ノ他ノ國ハ一種ノ「オブザーバー」トシテ署名セルモノト解スルヲ適當トスベシ。

ロ、「下名ハ茲ニ日本帝國大本營並ニ何レノ位置ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本國軍隊及日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ軍隊ノ聯合國ニ對スル無條件降伏ヲ布告ス」
本項ニ於テ帝國大本營一切ノ日本國軍隊及日本國ノ支配下ニアル一切ノ軍隊ノ聯合國ニ對スル無條件降伏ヲ規定シ居ルハ「ボツダム」

降伏ノ意思表示ヲナシタルニ對シ本項ニ於テ更ニ個々ノ指揮官方自ラ及其ノ麾下軍隊ヲ具體的且地方的ニ無條件ニ降伏スル様命令ヲ發スルコトヲ約シタル規定ナリ
ホ、「下名ハ茲ニ一切ノ官廳、陸軍及海軍ノ職員ニ對シ聯合國最高司令官ガ本降伏實施ノ爲適當ナリト認メテ自ラ發シ又ハ其ノ委任ニ基キ發セシムル一切ノ布告命令及指示ヲ遵守シ且之ヲ施行スルコトヲ命ジ並ニ右職員ガ聯合國最高司令官ニ依リ又ハ其ノ委任ニ基キ特ニ任務ヲ解カレザル限リ各自ノ地位ニ留リ且引續キ各自ノ非職關の任務ヲ行フコトヲ命ズ」
本項前段ハ陸海軍職員其ノ他一般職員 (Civil officials) ニ對シ聯合國最高司令官ノ自ラ發シ又ハ他ヲシテ發セシムル命令布告指示ノ遵守及施行ヲ命令シ後段ニ於テ右職員ガ恣ニ其ノ任務ヲ離ルルコトヲ得ザル旨ヲ規定ス
前段ニ於テ注意スベキハ聯合國最高司令官ガ直接布告命令ヲ發スルコトノアルベキヲ明カニシ居ルコトナリ又陸海軍職員ノミナラズ一般職員ニ對シテモ命令ヲナシ而モ一般職員中ニハ當然公共團體(都市町村吏員)職員ヲモ含マルモノト解セラル。
尙後段ニ於テ聯合國司令官ガ官吏ノ免權ヲ保有スルガ如ク解セラルルモ其ノ主旨ハ官吏其ノ他ガ命令ノ實行ヲ肯ゼズ職ヲ去リ之ヲ處理スベキモノナキニ至ルヲ惧レ官吏ガ恣ニ其ノ職ヲ離レザルコトヲ規定セルモノナリ

ハ、「下名ハ茲ニ「ボツダム」宣言ノ條項ヲ誠實ニ履行スルコト並ニ右宣言ヲ實施スル爲聯合國最高司令官又ハ其ノ他特定ノ聯合國代表者ガ要求スルコトアルベキ一切ノ命令ヲ發シ且斯ル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ天皇、日本國政府及其ノ後繼者ノ爲メ約ス」
降伏ノ意思表示ヲナシタルニ對シ本項ニ於テ更ニ個々ノ指揮官方自ラ及其ノ麾下軍隊ヲ具體的且地方的ニ無條件ニ降伏スル様命令ヲ發スルコトヲ約シタル規定ナリ
ホ、「下名ハ茲ニ一切ノ官廳、陸軍及海軍ノ職員ニ對シ聯合國最高司令官ガ本降伏實施ノ爲適當ナリト認メテ自ラ發シ又ハ其ノ委任ニ基キ發セシムル一切ノ布告命令及指示ヲ遵守シ且之ヲ施行スルコトヲ命ジ並ニ右職員ガ聯合國最高司令官ニ依リ又ハ其ノ委任ニ基キ特ニ任務ヲ解カレザル限リ各自ノ地位ニ留リ且引續キ各自ノ非職關の任務ヲ行フコトヲ命ズ」
本項前段ハ陸海軍職員其ノ他一般職員 (Civil officials) ニ對シ聯合國最高司令官ノ自ラ發シ又ハ他ヲシテ發セシムル命令布告指示ノ遵守及施行ヲ命令シ後段ニ於テ右職員ガ恣ニ其ノ任務ヲ離ルルコトヲ得ザル旨ヲ規定ス
前段ニ於テ注意スベキハ聯合國最高司令官ガ直接布告命令ヲ發スルコトノアルベキヲ明カニシ居ルコトナリ又陸海軍職員ノミナラズ一般職員ニ對シテモ命令ヲナシ而モ一般職員中ニハ當然公共團體(都市町村吏員)職員ヲモ含マルモノト解セラル。
尙後段ニ於テ聯合國司令官ガ官吏ノ免權ヲ保有スルガ如ク解セラルルモ其ノ主旨ハ官吏其ノ他ガ命令ノ實行ヲ肯ゼズ職ヲ去リ之ヲ處理スベキモノナキニ至ルヲ惧レ官吏ガ恣ニ其ノ職ヲ離レザルコトヲ規定セルモノナリ

宣言第十三項ニ對應スルモノナルガ「大本營及日本國軍隊」ノ無條件降伏ノミヲ規定シ帝國及帝國政府ヲ除キ居ルハ注目ニ價ス。
尙「日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ軍隊」トハ滿洲國軍、「ビルマ」軍、印度獨立軍等ヲ指稱スルモノト思ハル。

ハ、「下名ハ茲ニ何レノ位置ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本國軍隊及日本國臣民ニ對シ敵對行為ヲ直ニ終止スルコト、一切ノ船舶、航空機並ニ軍用財産ヲ保存シ之ガ毀損ヲ防止スルコト及聯合國最高司令官ハ其ノ指示ニ基キ日本國政府ノ諸機關ノ課スベキ一切ノ要求ニ應ズルコトヲ命ズ」
本項ニ於テハ軍隊ノミナラズ國民全體ニ對シ敵對行為ノ終止、武器ヲ置クコトヲ要求シ居リ、右ハ國民義勇隊組織ヲ目指シタリトモ解セラルガ、寧ロ凡ユル敵對行為ノ脅威ヲ防止セントスルノ意ニシテ一般國民ヲ交戦者ト看做セル意ニ非ズト思考ス、又軍用及非軍用財産ノ毀損防止ハ軍ノ引揚武裝解除等ニ際シ斯ル毀損ノ行ハレタル事例屢々アリタルニ鑑ミテ規定セルモノナリ

尙後段ニ於テ軍司令官等ノ「一切ノ要求ニ服ス」ベキコトヲ規定シ特ニ制限的の字句ヲ使用シ居ラザルモ米法ニ於テ斯ル際「一切ノ要求」ハ夫レ以前ニ掲ゲタル事項ニ關スル一切ノ要求ヲ指スモノトセラレ居リ從テ此ノ場合敵對行為ノ終止、財産ノ毀損防止等ニ關スル一切ノ要求ト謂フコトヲ得ベシ。

ニ、「下名ハ茲ニ日本帝國大本營方何レノ位置ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本國軍隊及日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ軍隊ノ指揮官ニ對シ自身及其ノ支配下ニ在ル一切ノ軍隊ガ無條件ニ降伏スベキ旨ノ命令ヲ直ニ發スルコトヲ命ズ」
本文書第二項ト照應スル第二項ニアリテハ日本國軍隊全部ノ無條件

0016

天皇及日本國政府ガ誠實ニ「ボツダム」宣言ノ條項ヲ履行シ且右宣言實施ノ爲最高司令官又ハ聯合國代表者ヨリノ要求アリタル事項ニ關シ命令ヲ發シ必要ナル措置ヲ執ルベキコトヲ規定シ前記(ホ)ノ場合ト異リ天皇及日本國政府ガ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ認メ居リ此ノ點獨逸國ノ場合ト根本的差異ヲ認ムルコトヲ得又大本營ヲ除去シ居ルハ今後大本營ノ廢止ヲ考慮シタルモノト思ハル。

尙天皇、日本國政府ニ加ヘ其ノ後繼者ヲ列舉セルハ天皇踐祚アラセラルル場合又ハ政府更迭ノ場合之ニ藉口シテ本義務ヲ破壞スルコトナキ爲ノ入念ノ規定ト解スルヲ穩當トスベク之ヲ以テ國體ノ變革ヲ意圖シ居ルモノト解スルハ適當ナラザルベシ

ト、「下名」ハ茲ニ日本帝國政府及日本帝國大本營ニ對シ現ニ日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ聯合國俘虜及被拘留者ヲ直ニ解放スルコト並ニ其ノ保護、手當、給養及指示セラレタル場所ヘノ即時輸送ノ爲ノ措置ヲ執ルコトヲ命ズ

俘虜及拘留者ニ付テハ聯合國内ノ政關係ヨリスルモ先方ノ常ニ重大視シ居ル處ニシテ殊ニ俘虜及被拘留者ノ虐待ノ報大袈裟ニ傳ヘラレタル爲至急其ノ解放及待遇改善ヲ要求シ來レルモノト思惟セラルチ、「天皇及日本國政府ノ國家統治ノ權限ハ本降伏條項ノ實施スル爲適當ト認ムル措置ヲ執ル聯合國最高司令官ノ制限ノ下ニ置カラルモノトス」

本項ハ「ボツダム」宣言受諾ニ關スル往復文書ニ於ケル聯合國ノ回答文ト同一事項ナリ

右ハ本降伏條項ノ實施スル爲適當ト認マラルル範圍内ニ於テ聯合國最高司令官ノ執ルベキ措置ニ依リ、天皇及日本國政府ノ統治權行使ノ權限ガ制限ヲ受クル旨ヲ明カニセルモノナリ、適當ト認ムル範圍

ハ聯合國側ノ判斷ニ基ク次第ナルモ、法規的且客觀的ニハ飽ク迄本降伏條項ノ實施ノ爲」ニシテ、右實施ノ爲以外ニ出ヅルコトヲ得ズ、而シテ本項ハ天皇ノ統治權ノモノガ聯合國最高司令官ニ委讓セズレ、又ハ同司令官ガ天皇又ハ日本國政府ニ代リ統治權ヲ行使スルモノニ非ズ

四、降伏文書ノ性質

以上降伏書ノ形式及内容ヨリ考察シ本文書ノ性質ハ左ノ如ク判斷セラ

- 1、降伏文書ハソノ形式及内容ヨリ我方ノ降伏ニ關スル義務ノ聯合國ニ對スル一方の意思表示ニシテ相手方アル單獨行爲トモ解セラルルニ非ザルモ、聯合國方之ヲ受諾シ居ルニ付國內法ニ於ケル贈與ノ形式ニ類似シ從テ之ヲ以テ國際約束ニ非ズトハ言ヒ難カルベシ但シソノ形式内容ハ全ク從來ノ國際約束ト異ル。
- 2、降伏文書ハ我方ノ一方の休戰ノ意思表示ナリ
- 3、ソノ内容ヨリスレバ一般ノ休戰協定ヨリ遙ニ廣般ナル事項ヲ包含ミ居リ此ノ意味ニ於テハ從來ノ休戰協定ト講和條約ノ中間的性質ヲ有スルモノトモ見ラル。

(ハ) 一般命令第一號(陸海軍)(指令第一號)

一、帝國大本營ハ茲ニ勅命ニ依リ且勅命ニ基ク一切ノ日本國軍隊ノ聯合

國最高司令官ニ對スル降伏ノ結果トシテ日本國國內及國外ニ在ル一切ノ指揮官ニ對シ其ノ指揮下ニ在ル日本國軍隊及日本國ノ支配下ニ在ル軍隊ヲシテ敵對行爲ヲ直ニ終止シ其ノ武器ヲ措キ現位置ニ留リ且左ニ指示セラレ又ハ聯合國最高司令官ニ依リ追テ指示セララルコトアルベキ合衆國、中華民國、聯合王國及「ソヴィエツト」社會主義共和國聯邦ノ名ニ於テ行動スル各指揮官又ハ其ノ指名シタル代表者ニ對シテハ即チ命令ヲ指示セラレタル指揮官又ハ其ノ指名シタル代表者ニ對シテハ即チ刻連絡スベキモノトス但シ細目ニ關シテハ聯合國最高司令官ニ依リ變更ノ行ハルコトアルベク右指揮官又ハ代表者ノ命令ハ完全ニ且即時實行セラレベキモノトス

(イ) 支那(滿洲ヲ除ク)、臺灣及北緯十六度以北ノ佛領印度支那ニ在ル日本國ノ先任指揮官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助部隊ハ「ソヴィエツト」極東軍最高司令官ニ降伏スベシ

(ロ) 滿洲、北緯三十八度以北ノ朝鮮、樺太及千島諸島ニ在ル日本國ノ先任指揮官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助部隊ハ「ソヴィエツト」極東軍最高司令官ニ降伏スベシ

(ハ) (一) 「アングマン」諸島、「ニコバル」諸島、「ビルマ」、「タイ」國、北緯十六度以南ノ佛領印度支那、「マライ」、「スマトラ」、「ジャバ」、「小スンダ」諸島(バリ、「ロンボク」及「チモール」ヲ含ム)、「ブル」、「セラム」、「アンボン」、「カイ」、「アル」、「タニ」、「ンバル」及「アラフラ」海ノ諸島、「セレベス」諸島、「ハルマヘラ」諸島並ニ蘭領「ニューギニア」ニ在ル日本國ノ先任指揮官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助部隊ハ東南亞細亞軍司令部最高司令官ニ降伏スベシ

(ニ) 「ボルネオ」、英領「ニューギニア」、「ビスマルク」諸島及「ソ

ロモン」諸島ニ在ル日本國ノ先任指揮官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助部隊ハ濠洲陸軍最高司令官ニ降伏スベシ

(三) 日本國委任統治諸島、小笠原諸島及他ノ太平洋諸島ニ在ル日本國ノ先任指揮官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助部隊ハ合衆國太平洋艦隊最高司令官ニ降伏スベシ

(ホ) 日本國大本營並ニ日本國本土、之ニ隣接スル諸小島、北緯三十八度以南ノ朝鮮、琉球諸島及「フィリッピン」諸島ニ在ル先任指揮官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助部隊ハ合衆國太平洋陸軍部隊最高司令官ニ降伏スベシ

(ヘ) 前記各指揮官ノミガ降伏ヲ受諾スルノ權限ヲ付與セラレタル聯合國代表者ニシテ日本國軍隊ノ降伏ハ總テ右指揮官又ハ其ノ代表者ノミニ對シテ爲サルベシ

日本國大本營ハ更ニ日本國國內及國外ニ在ル其ノ指揮官ニ對シ何レノ位置ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本國軍隊又ハ日本國ノ支配下ニ在ル軍隊ヲ完全ニ武裝解除シ且前記聯合國指揮官ニ依リ指定セララルル時期及場所ニ於テ一切ノ兵器及裝備ヲ現狀ノ儘且完全ニシテ良好ナル狀態ニ於テ引渡スベキコトヲ命ズ

追テ指示アル迄日本國本土内ニ在ル日本國警察機關ハ本武裝解除規定ノ適用ヲ免ルルモノトス警察機關ハ其ノ部署ニ留ルモノトシ法及秩序ノ維持ニ付其ノ責ニ任ズベシ右警察機關ノ人員及武裝ハ規定セララルモノトス

二、日本國大本營ハ聯合國最高司令官ニ對シ本命令受領ノ後遲滞ナク日本國及日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ地域ニ於ケル左ノ諸點ニ關スル完全ナル情報ヲ提供スベシ

(イ) 一切ノ陸上、海上、航空及防空部隊ノ位置及將兵ノ數ヲ示ス

(ロ) 一切ノ陸軍、海軍及非軍用航空機ノ數、型式、位置及其ノ狀態ニ關シ完全ナル情報ヲ與フル表

(ハ) 日本國ノ及日本國ノ支配スル一切ノ水上及潜水海軍艦艇並ニ補助海軍艦艇ニシテ就役中ノモノ又ハ就役中ニ非ザルモノ及建造中ノモノノ位置、狀態及運行ヲ示ス表

(ニ) 日本國ノ及日本國ノ支配スル、一切ノ總噸數百噸ヲ超ユル商船(嘗テ聯合國ノ何レカニ屬シ現ニ日本國ノ國內ニ在ルモノヲ含ム)ニシテ就役中ノモノ又ハ就役中ニ非ザルモノノ及建造中ノモノノ位置狀態及運行ヲ示ス表

(ホ) 一切ノ機雷、機雷原其ノ他ノ陸上、海上又ハ空中ノ行動ニ對スル障害物ノ位置及施設狀況並ニ右ニ關聯スル安全通路ニ關スル完全且詳細ナル地圖附情報

(ヘ) 飛行場、水上機基地、對空防備施設、港、海軍基地、物資貯藏所、常設及假設ノ陸上及沿岸防備施設、要塞其ノ他ノ防備地域ヲ含ム一切ノ軍事施設及建造物ノ位置及説明

(ト) 聯合國諸國ノ俘虜及被拘留者ノ一切ノ收容所其ノ他ノ拘留所ノ位置

三、日本軍及民間航空所管當局ハ一切ノ日本國ノ陸軍、海軍及非軍用航空機ヲ追テ其ノ處理ニ關シ通告アル迄陸上、海上又ハ艦上ニ留ルコトヲ保障スルモノトス

四、日本國ノ又ハ日本國ノ支配スル一切ノ型式ノ海軍艦艇及商船ハ聯合國最高司令官ノ指示アル迄之ヲ毀損スルコトナク保全シ且移動ヲ企圖セザルモノトス。航海中ノ船舶ニ於テハ直ニ一切ノ種類ノ爆發物ヲ無害ト爲シ海中ニ抛棄スルモノトス。航海中ニ非ザル船舶ニ於テハ直ニ一切ノ種類ノ爆發物ヲ沿岸ノ安全ナル貯藏所ニ移轉スルモノトス

五、責任アル日本國ノ及日本國ノ支配下ニ在ル軍及行政當局ハ左記ヲ保障スルモノトス

(イ) 一切ノ日本國ノ機雷、機雷原其ノ他ノ陸上、海上及空中ノ行動ニ對スル障害物ハ何レノ位置ニ在ルヲ問ハズ聯合國最高司令官ノ指示ニ從ヒ之ヲ除去ス

(ロ) 航海ヲ便ナラシムル一切ノ施設ハ直ニ之ヲ復活ス

(ハ) 前記(イ)ノ實施迄一切ノ安全通路ハ之ヲ開放シ且明瞭ニ標示ス

六、責任アル日本國ノ及日本國ノ支配下ニ在ル軍及行政當局ハ聯合國最高司令官ヨリ追テ指示アル迄左記ヲ現狀ノ儘且良好ナル狀態ニ於テ保持スルモノトス

(イ) 一切ノ兵器、彈藥、爆發物、軍用ノ裝備、貯品及需品其ノ他一切ノ種類ノ戰爭用具及他ノ一切ノ戰爭用資材(本命令第四項ニ特ニ規定スルモノヲ除ク)

(ロ) 一切ノ陸上、水上及空中運輸及通信ノ施設及裝置

(ハ) 飛行場、水上機基地、對空防備施設、港及海軍基地、物資貯藏所、常設及假設ノ陸上及沿岸防備施設、要塞其ノ他ノ防備地域ヲ含ム一切ノ軍事施設及建造物並ニ一切ノ此等ノ防備施設、軍事施設及建造物ノ設計及圖面

(ニ) 一切ノ戰爭用具並ニ軍事機關又ハ準軍事機關其ノ運営ニ關シ現ニ使用シ又ハ使用セントスル他ノ資材及資產ヲ製造スル爲又ハ此等ノ製造若ハ使用ヲ容易ナラシムル爲計畫セラレ又ハ之ニ充當セラレタル一切ノ工場、製造場、工作場、研究所、實驗所、試驗所、技術上ノ要目(「データ」)、特許、設計、圖面及發明

七、日本國大管ハ聯合國最高司令官ニ對シ本命令受領ノ後運轉ナク前記第六項(イ)、(ロ)及(ニ)ニ掲グル一切ノ項目ニ關シ其ノ數目、型式

0018

及位置ヲ示ス完全ナル表ヲ提供スベシ

八、一切ノ兵器、彈藥及戰爭用具ノ製造及分配ハ直ニ之ヲ終止スルモノトス

九、日本國ノ又ハ日本國ノ支配下ニ在ル官憲ノ權内ニ在ル聯合國諸國ノ俘虜及被拘留者ニ關シテハ

(イ) 一切ノ聯合國諸國ノ俘虜及被拘留者ノ安全及福祉ハ細心ノ注意ヲ以テ之ヲ保持スルモノトシ右ハ聯合國最高司令官ガ其ノ責任ヲ引繼グニ至ル迄適當ナル食糧、住居、被服及醫療ヲ確保スルニ必要ナル管理及補給ノ業務ヲ含ムモノトス

(ロ) 聯合國諸國ノ俘虜及被拘留者ノ收容所其ノ他ノ拘留所ハ夫々其ノ設備、貯藏品、記録、武器及彈藥ト共ニ直ニ之ヲ右俘虜及被拘留者中ノ先任將校又ハ指定セラレタル代表者ニ引渡シ其ノ指揮下ニ入ラシムルモノトス

(ハ) 聯合國最高司令官ノ指示スル所ニ從ヒ俘虜及被拘留者ハ聯合國官憲方之ヲ引取り得ベキ安全ナル場所ニ輸送セララルモノトス

(ニ) 日本國大管ハ聯合國最高司令官ニ對シ本命令受領ノ後運轉ナク一切ノ聯合國ノ俘虜及被拘留者ノ所在ヲ示ス完全ナル表ヲ提供スルモノトス

十、一切ノ日本國ノ及日本國ノ支配下ニ在ル軍及行政當局ハ聯合國軍隊ノ日本國及日本國ノ支配スル地域ノ占領ヲ援助スベシ

十一、日本國大管及日本國當該官憲ハ聯合國占領軍指揮官ノ指示アル際一般日本國民ノ所有スル一切ノ武器ヲ蒐集シ且引渡ス爲ノ準備ヲ爲シ置クベシ

十二、日本國ノ及日本國ノ支配下ニ在ル軍及行政官憲並ニ私人ハ本命令及爾後聯合國最高司令官又ハ他ノ聯合國軍官憲ノ發スル一切ノ指示ニ

誠實且迅速ニ服スルモノトス、本命令若ハ爾後ノ命令ノ規定ヲ遵守スルニ遲滞アリ又ハ之ヲ遵守セザルトキ及聯合國最高司令官ガ聯合國ニ對シ有害ナリト認ムル行爲アルトキハ聯合國軍官憲及日本政府ハ嚴重且迅速ナル制裁ヲ加フルモノトス

十三、日本國大管ハ聯合國最高司令官ニ對シ前記第二項、第七項及第九項(ニ)ニ要求セララルル情報ヲ提供シ得ベキ最モ速ナル日時ヲ直ニ通報スルモノトス

四、指令 第二號及第三號

聯合國最高司令官司令部

指令第二號 「エー、ビー、オー」五〇〇
千九百四十五年九月三日

第一部 總則

一、日本帝國政府及日本帝國大管ハ茲ニ本指令ニ掲グル聯合國最高司令官ノ要求ヲ各場合ニ從ヒ自ラ遵守シ又ハ之ヲ遵守ヲ確保スルコトヲ指示セララル

ロ 本指令並ニ之ニ基キ必要ナリト認メララルニ至ルコトアルベキ日本帝國政府及日本帝國大管ノ數符的訓令ハ、日本國本土並ニ對馬島、北緯三十八度以南ノ朝鮮及琉球諸島ヲ含ム隣接沿岸諸島ニ在ル日本國ノ及日本國ノ支配下ニ在ル軍隊並ニ當該行政機關ニ適用セララルベシ

ハ 本指令ニ依リ課セラレタル要求ハ其ノ適用範圍内ニ於ケル指定目的ニ付聯合國最高司令官ノ占領軍ノ迅速且秩序アル定駐ヲ容易ナラシメ且確保スルコト並ニ降伏條件ノ秩序アル遵守ヲ確保スルニ必要

RA'-0008

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ナリト認メラルル日本國軍隊ノ武装解除及復員ニ對シ一定ノ統制ヲ設クルコトヲ目的トス

ニ 追加要求事項ハ前記目的ヲ達成スル爲必要ナリト認メラルルニ從ヒ時々之ヲ課スルモノトス

二イ 本指令ニ使用セラレタル「日本國軍隊」ナル語ハ一切ノ日本國ノ及日本國ノ支配下ニ在ル陸軍及海軍ヲ謂ヒ其ノ空軍、補助機關及準軍事組織並ニ前記ノ何レカニ依リ屈備セラレ又ハ之ニ附屬スル一切ノ者ヲ含ム但シ普通警察ヲ含マザルベシ

ロ 本指令ニ使用セラレタル「聯合軍代表者」ナル語ハ占領軍指揮官又ハ聯合軍最高指揮官ノ委任ニ基キ行動スル下級指揮官、參謀將校若ハ機關ヲ謂フ

三 聯合國最高司令官兼合衆國太平洋陸軍最高司令官ハ本指令ノ一部ト看做サルベキ附屬書「甲」タル地圖ニ詳細ニ示サル日本國領土並ニ北緯三十八度以南ノ朝鮮ノ諸區域ニ於ケル占領軍指揮官ヲ指名セリ右指揮官ニ依リ若ハ其ノ委任ニ基キ發セラレ一切ノ命令及訓令ハ示サレタル區域内ニ於テハ聯合國最高司令官ノ權限ニ依リタルモノト看做サルベシ

四 聯合國最高司令官ノ權限ニ依リ發セラレ一切ノ布告、命令及訓令ノ正文ハ英語ニ依ルベシ日本語ノ翻譯文モ發セラレ相違發生スル場合ニ於テハ英語ノ本文ニ據ルモノトス發セラレタル何レカノ訓令ノ意義ニ關シ疑義發生スルトキハ發令官憲ノ解釋ヲ以テ最終的ノモノトス

五 日本國軍隊ノ一切ノ機構、部隊又ハ分隊ノ指揮官ハ聯合軍代表者ニ依リ發セラレ且右日本國ノ指揮官ノ責任ノ範圍内ニ於テ適用セラレル訓令ノ迅速且完全ナル遂行ニ付個人的ニ責任アルモノト聯合國最高司令官又ハ當該占領軍指揮官ニ依リ認メラルベシ

六 別段ノ明示ナキ限り本指令ニ掲グル時間制限ハ日本帝國大本營ニ依ル本指示ノ受領ノ時ヨリ起算セラレタル報告ハ英語ニ依リ提出セラレルモノトス

第二部 日本國軍隊

一 日本國大本營ハ附屬書「甲」タル地圖ニ示サル所ニ從ヒ管轄ノ境界ヲ日本國第一總軍ニ付テハ合衆國第八軍ト符合セシムル様又日本國第二總軍ニ付テハ合衆國第六軍ニ符合セシムル様遲滞ナク調整スルモノトス

二イ 日本國第一總軍指揮官ハ合衆國第八軍ノ責任區域ヘノ占領軍ノ進入ニ關スル訓令ヲ俟ツ爲東京區域ニ在ル合衆國第八軍指揮官ニ依リ指示セラレル時及場所ニ於テ右指揮官ト自ラ連絡スルモノトス

ロ 日本國第二總軍指揮官ハ合衆國第六軍ノ責任區域ヘノ占領軍ノ進入ニ關スル訓令ヲ俟ツ爲合衆國第六軍指揮官ト「ラヂオ」ニ依リ遲滞ナク連絡スルモノトス「ラヂオ」ニ依リ最初ノ連絡ハ聯合國最高司令官ノ施設ニ依リ又爾後ノ直接連絡ハ合衆國第六軍ノ指揮官ガ指示スル所ニ從ヒ行ハルモノトス

ハ 京城ニ在ル日本國第十七區域軍指揮官ハ豫メ日本帝國大本營ニ傳達セラレル訓令ニ從ヒ北緯三十八度以南ノ朝鮮ヘノ合衆國占領軍ノ進入ニ關スル詳細ナル訓令ヲ俟ツ爲朝鮮合衆國軍隊指揮官（合衆國第二十四軍團指揮官）ト連絡スベシ

ニ 日本帝國海軍軍令部長ノ先任代表者ハ合衆國海軍部隊ノ日本國本土及朝鮮ノ水域及海軍建造物ヘノ進入ニ關スル訓令ヲ俟ツ爲聯合國最高司令官ノ東京區域ニ在ル指定海軍代表者ニ依リ指示セラレル時及場所ニ於テ右代表者ト自ラ連絡スルモノトス

ホ 琉球諸島ニ在ル日本國指揮官ハ合衆國軍隊ニ依ル右諸島ノ占領

ニ關スル合衆國第十軍指揮官ヨリノ直接訓令ヲ適當ナル時ニ於テ受クルモノトス

三 日本帝國大本營ハ要求アリタルトキ聯合國最高司令官ニ對シ左記ヲ提出スルモノトス

イ 日本帝國大本營ノ並ニ其ノ一切ノ部、局及機構ノ現位置ニ關スル詳細ナル情報、位置ハ縮尺十萬分一ヨリ小ナラザル地圖上ニ正確ニ之ヲ標示スルモノトス帝國大本營ノ部、局及機關ノ完全ナル公ノ名稱及宛先ハ右ノ各ノ部、局又ハ機關ノ先任將校又ハ官吏ノ姓名及擔任事務又ハ官職ト共ニ之ヲ示スモノトス

ロ 師團及獨立旅團並ニ右ニ相當スル海軍部隊ニ至ル迄ノ指揮系統ヲ示ス日本國軍隊ノ詳細ナル組織圖

四 日本帝國大本營ハ各總軍、區域軍、軍、師團、獨立旅團（一切ノ種類ノモノ）及獨立聯隊（一切ノ種類ノモノ）並ニ右ニ相當スル海軍部隊ニ關スル左ノ情報ヲ聯合國最高司令官ニ對シ遲滞ナク提供スルモノトス

イ 名稱並ニ暗號呼出名及番號

ロ 本營ノ特定ノ位置

ハ 指揮官ノ姓名

ニ 原隊ノ所在地

ホ 組織上ノ兵力表

ヘ 現兵力（兵力ノ報告ガ受領セラレタル最近ノ日ニ於ケルモノ）

五イ 日本國軍隊ノ武装解除ニ關スル「一般命令第一號（陸、海軍）」第一項ノ規定ノ實施ニ關シテハ日本帝國大本營ハ日本國軍隊ニ依ル右武装解除ノ完全且無條件ノ履行ニ付引續キ責任ヲ任ズベシ

ロ 占領軍ヘノ武装ノ引渡ニ關スル詳細ナル訓令ハ左ノ者ニ依リ當該

日本國指揮官ニ對シ直接與ヘラルルモノトス

(一) 合衆國陸軍ニ依リ引取ラルル彈藥手持品、日本國陸軍ノ武器並ニ海軍艦船及商船並ニ其ノ武器ニ付テハ各自ノ責任區域ニ於ケル合衆國第八軍指揮官、合衆國第六軍指揮官及朝鮮派遣合衆國軍隊指揮官

(二) 合衆國海軍ニ依リ引取ラルル海軍艦艇、沿岸建築物、需品及裝備ニ付テハ聯合國最高司令官ノ各指定海軍代表者

六イ 日本帝國大本營ハ一切ノ日本國軍隊ノ迅速ニシテ秩序アル復員ヲ行フベシ

ロ 復員手續ハ復員部隊ノ監督、人員ノ除隊率及指定ヲ含ミ部隊ガ復員セラレベキ區域ニ在ル占領軍指揮官ノ監督ヲ受クルモノトス

七 日本帝國大本營ハ復員ノ終了迄日本國軍隊ノ維持及經理ヲ繼續スルコト並ニ聯合軍代表者ニ依リ責任ヲ解除セラレル迄一切ノ記録及文書ヲ維持シ及保存スルコトニ付責任ヲ任ズ

八 日本帝國大本營ハ左ノ趣旨ノ訓令ヲ發スベシ

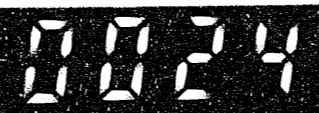
イ 左ノ事業ハ遲滞ナク之ヲ完成スベシ

(一) 一切ノ港及碇泊所ニ於ケル一切ノ防禦施設ハ之ヲ開放シ且開放シ置クモノトス右防禦施設ハ十四日以内ニ之ヲ撤去スルモノトス

(二) 一切ノ港及碇泊所ニ於ケル一切ノ制御機雷原ハ之ガ連絡ヲ斷チ且無害タラシムルモノトス

(三) 一切ノ港及碇泊所内ニ在ル一切ノ破壞裝置ハ之ヲ撤去シ又ハ無害タラシメ且其ノ位置ハ明瞭ニ之ヲ標示スルモノトス

ロ 一切ノ航海及航空ヲ便ナラシムル一切ノ施設ハ之ヲ復活ス右事業ノ完成ニ至ル迄ハ現在ノ戰時航路照明方式ハ之ヲ維持スルモノトス



但シ一切ノ滅光燈ハ全光度ヲ以テ之ヲ掲グルモノトス
 ハ一切ノ水先案内業務ハ引續キ之ヲ營ミ且一切ノ水先案内人ハ海圖ヲ携帶シ其ノ平常ノ職務ニ在リテ特機スベシ
 ニ 海港及空港ノ作業ニ關係アル日本人職員ハ追テ指示アル迄ハ其ノ職務ニ留リ其ノ平常ノ任務ヲ引續キ遂行スベシ
 ホ 一切ノ軍艦及商船ハ港ニ在ルト海上ニ在ルトヲ問ハズ直ニ一切ノ武器ヲ船ノ首尾線ニ副ハンメ之ヲ使用不能ナラシムベシ
 九 日本帝國大本營ハ日本國ノ軍艦、補助艦、商船及他ノ船舶ノ一切ノ乗員ガ聯合國ノ各代表者ニ依リ課セラレタル任務ノ遂行ニ依リ別段ノ要求ヲ受タル者ヲ除クノ外追テ訓令アル迄船内ニ留ルコトヲ命ズベシ
 十 日本帝國大本營ハ聯合國最高司令官ニ對シ遲滞ナク左記ヲ引渡スモノトス
 イ 日本及朝鮮ノ水域ニ於ケル沿岸護送航路及探察線ノ水路並ニ浮標、照明燈及他ノ航海ヲ便ナラシムル施設ニ關スル詳細
 ロ 日本國海軍省ニ最近報告セラレタル海軍用彈藥手持品並ニ汽罐（「デューセル」式、「ガソリン」使用及石炭使用ノモノ）ヲ含メル海軍用燃料手持品ニ關スル詳細ナル表
 ハ 一切ノ病院船ノ位置、狀態及病床收容力ヲ示ス表
 ニ 日本國本土及隣接諸島、琉球諸島、支那、朝鮮並ニ日本人ニ依リ占領セラレ居ル他ノ地域ヲ包含スル一切ノ航海圖及航空圖並ニ他ノ一切ノ種類ノ水路學の出版物中最近出版ノモノ各十部
 ホ 「マリアナ」諸島及「カロリン」諸島ニ關スル三角測量及潮汐ニ付テノ資料（「データ」）
 十一 日本帝國政府及日本帝國大本營ハ聯合國最高司令官ニ對シ十一日以内ニ左ノ地圖及書類ヲ引渡スモノトス、

イ 日本帝國大本營、日本國參謀本部及帝國陸地測量部ノ權限ニ基キ發行セラレタル日本、支那、朝鮮滿洲並ニ日本國陸軍及海軍ノ軍隊ニ依リ占領セラレ居ル他ノ一切ノ區域ニ關スル一切ノ縮尺及種類ノ最新版ノ地形學的地圖各二部、地圖ハ縮尺別及區域別ニ各別ノ圖案ニ依リ之ヲ整理スベク且之ニ各圖案ノ内容ヲ示ス圖解式索引ヲ附スベシ日本帝國大本營及其ノ從屬機關ノ所有スル右地圖ノ一切ノ追加圖葉ハ聯合國最高司令官ヨリ其ノ最後の處分ニ關シ追テ指示アル迄之ヲ安全ニ保管スベシ
 ロ 日本、朝鮮、支那及滿洲並ニ日本陸軍及海軍ノ軍隊ニ依リ占領セラレ居ル他ノ一切ノ區域ノ地形測量ニ關聯シテ建設セラレタル三角標及據點標ノ測量上ノ位置及記述ノ一切ノ記錄各二部
 ハ 日本國軍隊ガ「マニラ」占領中ニ鹵獲シタル「フイリツピン」諸島ニ關スル一切ノ測量資料（「データ」）
 ニ 本指令ニ包含セラルル區域中ノ何レノ位置ニ在ルヲ問ハズ一切ノ地雷、機雷原其ノ他ノ陸路、海路及空路ニ依リ行動ニ對スル障害物ヲ明瞭ニ標示スル爲即時ノ手段ガ執ラレルモノトス
 十三 日本帝國大本營ハ一切ノ掃海艇方直ニ所定ノ武器解除ノ措置ヲ遂行シ、必要ナル燃料ヲ補給シ且掃海任務ニ利用シ得ル如ク保存セラルルコトヲ確保スルモノトス
 日本及朝鮮ノ水域ニ在ル水中機雷ハ聯合國最高司令官ノ指定海軍代表者ノ指示スル所ニ從ヒ除去セラルルモノトス
 十四 日本國ノ一切ノ地雷、地雷原及破壞裝置、隱蔽爆發物、落下鼠ヲ含ム其ノ他ノ障害物ハ之ヲ安全ナラシメ能ク限リ早期ニ之ヲ撤去スベシ右作業ノ完了迄ハ一切ノ安全通路ハ明瞭ニ之ヲ表示シ且之ヲ開放シ置クベシ

0020

十五 日本帝國政府及日本帝國大本營ハ左記ヲ確保スルモノトス
 イ 聯合國最高司令官ノ要求アルトキハ左記ニ關スル完全ナル情報ヲ提供スル爲準備方爲サルコト
 (一) 海底電線、無線電信、無線電話及無線放送施設ヲ含ム一切ノ對外國際電氣通信施設
 (二) 北海道、本州、四國、九州、朝鮮及臺灣並ニ琉球諸島及千島諸島ノ主要ナル地點ノ間ヲ連絡スル一切ノ長距離及幹線電氣通信施設
 ロ 本指令ニ包含セラルル區域内ニ在ル一切ノ國際及國內電氣通信施設（海底電線、無線電信、無線電話及無線放送施設ヲ含ム）ハ現狀ノ儘之ヲ維持シ現在人員（陸軍、海軍及非軍人タル陸軍非海軍若ハ非軍人ノ何レタルヲ問ハズ）
 ハ 情況ガ必要ナリトスル檢閲及監督ノ爲聯合國最高司令官ノ代表者ノ要求アル場合ニ於テ前記ノ施設ニ出入スルコトヲ得シムルコト
 ニ 政府、非軍事、空軍、海軍、陸軍ノ信號通信機關ノ首席代表者ハ訓令ヲ受クル爲呼出アリタル場合ニハ聯合國最高司令官部通信部長ノ許ニ出頭シ得ル様爲サルコト
 十六 日本帝國大本營ハ聯合國最高司令官ニ對シ左記ノ情報ヲ提供スル報告ヲ遲滞ナク提出スベシ
 イ 日本國軍隊ノ健康ニ關スル詳細ナル記述
 ロ 日本國軍隊ニ依リ支配セラルル野戰及固定病院ノ所在地表ニシテ各病院ノ位置及病床收容力ヲ示スモノ
 十七 日本帝國政府ハ一切ノ都會自治町村及市ノ名稱ガ此等ヲ連結スル公路ノ各入口ノ兩側及停車場歩廊ニ少クトモ六「インチ」以上ノ文字ヲ使用シ英語ヲ以テ掲ゲラルルコトヲ確保スルモノトス名稱ノ英語ハ

ノ轉記ハ修正「ヘボン」式（「ローマ字」）ニ依ルベシ
 十八 日本帝國大本營ハ要求アルトキハ日本國軍隊ニ於テ使用セラルル徵集及除隊ノ方法ニ關スル情報ヲ入手シ得シムルモノトス
 第三部 聯合國俘虜及非軍人被拘留者
 一 本指令ニ使用セラルル「俘虜」ナル語ハ日本國ニ依リ收容セラレ居ル左ノ一切ノ人員ヲ含ムモノト解セラルベシ
 (一) 聯合國諸國中ノ何レカノ軍隊ノ隊員タルカ若ハ隊員タリシ者又ハ右軍隊ニ隨行シ若ハ勤務スル者
 (二) 聯合國諸國ノ爲ニ勤務中日本國ノ占領セル國ノ軍隊ノ隊員トシテ日本人ニ依リ逮捕セラレタル者及千九百二十九年七月二十七日本ノ「ジュネバ」條約（俘虜ニ關スルモノ）ノ條項ニ基キ右條約ガ日本國ニ依リ批准セラレ居ラザリシモ俘虜トシテ取扱ハルル權利ヲ有スル者
 (三) 聯合國諸國中ノ何レカノ商船隊ノ乗員タルカ若ハ乗員タリシ者又ハ右商船隊ニ勤務シ若ハ勤務シタル者
 (四) 「俘虜」ナル語ハ嘗テ俘虜トシテ日本國ニ依リ收容セラレ居リタルモ日本國ニ於ケル又ハ日本國ニ依リ雇傭ノ代價トシテ俘虜タルノ身分ヨリノ解放ヲ承諾シタル者ヲ含マズ
 ロ 本指令ニ使用セラルル「非軍人被拘留者」ナル語ハ千九百三十七年七月十日現在ニテ拘留セラレ居リタル日本帝國ノ國民タラザル一切ノ者ニシテ日本國政府ニ依リ拘留セラレ居ル軍人タルノ身分ヲ有セザルモノヲ含ムモノト解セラルベシ
 ハ 本指令ニ使用セラルル「俘虜及非軍人被拘留收容所」ナル語ハ一切ノ收容所、刑務所、船舶、宿舎、病院其ノ他俘虜若ハ非軍人タル被拘留者ノ監禁若ハ拘留ノ場所ヲ含ムモノト解セラルベシ

RA'-0008

ニ 本指令ニ使用セラルル「收容所長」ナル語ハ日本國軍隊ノ一切ノ部隊、分遣隊若ハ他ノ單位部隊ノ指揮將校若ハ其ノ補助者又ハ俘虜若ハ非軍人被拘留者ノ收容ヲ擔任スル一般ノ非軍人看守長若ハ他ノ官吏ヲ含ムモノト解セルラベシ

ニ 日本帝國政府及日本帝國大本營ハ聯合國最高司令官ニ對シテ未ダ提出セラレ居ラザル場合ニハ四十八時間以内ニ左ノ情報ヲ提供スベシ

イ 前記ニ於テ定義セラレタル俘虜及非軍人被拘留者ノ收容所ノ各ニ付左記ヲ示ス表

(一) 公式ノ名稱又ハ呼稱

(二) 最モ近キ顯著ナル地理的地點トノ關係の位置

(三) 度及分ニ依ル緯度及經度

(四) 俘虜及非軍人被拘留者ノ總數(適當ナル場合ニ於テハ總數中ニ合マルル女子ノ數ヲ含ム)

(五) 最モ近キ鐵道停車場ノ地理的位置

(六) 最モ近キ飛行場ノ名稱及地理的位置、各邊ノ長サ並ニ滑走路ノ狀態

(七) 入院ヲ要スル俘虜又ハ非軍人拘留者ノ概數

ロ 各收容所ノ位置ガ正確ニ記入セラレ居ル縮尺百萬分一ノ一葉ノ又ハ數葉ノ記載入地圖

ハ 各收容所ノ位置ヲ正確ニ示セル俘虜及非軍人被拘留者ノ收容所ノ各所在區域ノ縮尺十萬分一又ハ之ヨリ大ナル縮尺ノ記載入地圖

三 日本帝國政府及日本帝國大本營ハ本指令ヲ受領シタルトキハ利用シ得ル最モ迅速ナル方法ニ依リ各收容所長ニ對シテ左ノ訓令ヲ發スベシ

イ 一切ノ俘虜及非軍人被拘留者ヲ最モ早キ機會ニ集合セシメ且左ノ聲明ヲ英語及要求セラルルコトアルベキ他ノ言語ニテ讀ムコト

「日本國ノ聯合國ニ對スル正式ノ降伏ハ千九百四十五年九月二日署名セラレタリ陸軍大將「ダグラス、マカーサー」ハ聯合國最高司令官ニ任命セラレタリ聯合國軍隊ハ能ク限リ速ニ日本國本土及朝鮮ノ占領ヲ進メツツアリ聯合國ノ俘虜及非軍人被拘留者ノ救出及奪回ハ能ク限リ速ニ完遂セラルルモノトス

聯合國代表者ノ到着ニ至ル迄本收容所並ニ其ノ設備、貯品記録、武器及彈藥ニ關スル指揮ハ首席俘虜又ハ指定セラレタル非軍人被拘留者ニ引渡サルベク此等ノ者ハ爾後補給及管理ノ業務ノ維持並ニ地方ノ狀態ノ改善ノ爲メ收容所長ニ對シテ訓令ヲ與フルモノトス

收容所長ハ首席俘虜又ハ指定セラレタル非軍人被拘留者ニ對シテ其ノ指揮ヲ現狀ノ儘維持スルコトニ付責任ヲ負ルモノトス

聯合國代表者ハ諸君ノ移轉及諸君ノ家庭ヘノ結局ノ歸還ヲ準備スル爲メ本收容所ニ能ク限リ速ニ派遣セラルルモノトス

ロ 後ニ明示セララルル職務ノ遂行上日本國ノ收容所官吏ガ使用スル爲メ首席俘虜又ハ非軍人被拘留者ニ依リ指定セララルベキ物件ヲ除キ收容所ノ完全ナル支配ヲ一切ノ設備、貯品、管理上ノ及他ノ記録、武器並ニ彈藥ト共ニ首席俘虜又ハ非軍人被拘留者ニ引渡スコト

ハ 左記ヲ確保スル爲メ首席俘虜又ハ指定セラレタル非軍人拘留者ノ監督ノ下ニ地方的ニ入手シ得ル政府又ハ軍ノ貯品ノ徵發ヲ含メ必要ナル管理及補給ノ業務ヲ遂行スルコト

(一) 日本國ノ軍隊又ハ非軍人人員ガ地方的ニ入手シ得ル最高ノ割合ニ相當スル一日ノ給食量

(二) 届ク限リノ最善ノ醫療及一切ノ必要ナル醫療用補給品

(三) 充分ナル住居、被服、及沐浴施設

ニ 本指令ハ收容所ノ近隣ニ於テ入手シ得ル政府又ハ軍ノ貯品ニシテ

0021

本指令ニ明記セラルル責任ノ完遂ノ爲メ必要スルモノヲ徵發スル爲メノ權限ヲ構成スルモノトス

ホ 收容所組織ヲ現狀ノ儘ニ維持シ且首席俘虜又ハ非軍人被拘留者ニ對シテ一切ノ收容所職員、收容所ノ管理記録、勤務順序表並ニ收容所ニ在リ又ハ在リタル各俘虜及非軍人被拘留者ノ移送、入院及死亡ノ記録ニ關シテ説明スルコト

ハ 地方的ニ聯合國代表者ニ依リ指示セララルコトアルベキ俘虜及非軍人被拘留者ノ移動ノ爲メ輸送手段及補給シ又ハ地方ノ政府若ハ軍ノ方面ヨリ之ヲ徵發シ且行政的ノ手配ヲ完成スル様準備スルコト

ト 首席俘虜又ハ非軍人被拘留者ノ監督ノ下ニ左ノ情報ヲ作成シ日本帝國大本營ヲ通ジテ聯合國最高司令官ニ送付スルコト

(一) 俘虜及非軍人被拘留者ノ一切ノ現在員ノ姓名、階級又ハ地位、國籍、最近親、本國ノ名宛宛、年齢、性及健康狀況ヲ示ス完全ナル表

(二) 死亡シタル若ハ移送セラレタル俘虜又ハ非軍人被拘留者ニ關シ姓名、階級又ハ地位、國籍、最近親、本國宛宛名宛、死亡又ハ移送ノ日及目的地又ハ死亡セル者ニ付テハ埋葬場所ヲ示セル入手シ得ル記録ヨリノ抜萃

四 日本帝國大本營ハ前記ニ明記セラルル訓令ニ對シテ回答トシテ收容所長ニ依リ提出セラレタル一切ノ情報ヲ遲滞ナク聯合國最高司令官ニ傳達スベシ

第四部 資源

一 總則

日本帝國政府ハ聯合國最高司令官ノ委任ヲ受ケタル代表者又ハ各自ノ

區域ニ於ケル占領軍指揮官ノ指示スル所ニ從ヒ聯合國占領軍ノ使用ノ爲メ必要ナル一切ノ地方的資源ヲ聯合國占領軍ノ處分ニ委スベシ

二 統制

日本帝國政府ハ「ノ中央機關及主要占領區域ノ各ニ必要ナル下級機關ヲ設置スルモノトス右機關ノ主要ナル職務ハ占領軍ノ爲メ必要ナル區域及施設ニ關スル情報ヲ提供シ且右區域及施設ノ爲メ要求ヲ受理スルニ在ルモノトス

三 石油

聯合國占領軍ニ對シテ必要トスル石油製品、貯藏所及配給施設ヲ入手シ得ル限リ供給スル爲メ準備ガ爲サルモノトス明細ナル要求ハ後日提出セララルモノトス

四 勞務

イ 勞務ノ供給

日本帝國政府ハ主要占領區域ノ各ニ設置セラルル中央政府機關ヲ通ジ聯合國最高司令官又ハ各自ノ區域ニ於ケル占領軍指揮官ニ依リ指示セララル量、訓練度及熟練度ノ勞務ヲ右ノ如ク指示セララル期日及場所ニ於テ提供スルモノトス勞務ヲ供給スル機關ハ統制及生産ノ最高能率ヲ確保スル爲メ建設隊及沖仲仕組ノ如キ勞務者群ノ完備ヲ能ク限リ保持スルモノトス

ロ 所要勞務

日本帝國政府ニ依リ占領軍ニ提供セラルル所要勞務ハ左記ヲ含ムモノトス

(一) 一般勞務

(二) 技術的勞務及半熟練勞務

(三) 荷揚及貨物處理

RA'-0008

(四) 道路、鐵道、船渠及他ノ施設ノ修理
 (五) 聯合國占領軍ノ爲ノ住居及關聯施設ノ建設

五 住居
 日本帝國政府ハ占領軍ニ對シ其ノ爲ニ適當シ且其ノ要求スル一切ノ建築物ヲ提供スル準備ヲ爲スモノトス右要求ハ次ノ一般ノ種類即チ事務所用建築物、病院、宿舍、倉庫及貯藏所、店舗、運輸及通信ノ施設ヲ含ムモノトス明細ナル要求ハ後日提出セルルモメテ建築ハ能ハ限リ耐火建築ニシテ水道、下水處理施設、電氣、燈房裝置ヲ設備セラレ且如何ナル天候ニ於テモ使用シ得ル道路ニ接スルモノタルベキモノトス

六 飛行場
 特定ノ飛行場ハ必要ニ應ジテ之ヲ占領軍ニ利用シ得ルモノトス滑走路、航空機分散區域及前庭ハ之ヨリ日本國航空機ヲ除去スルモノトシ又滑走路ハ必要アルトキハ最小限五千「フット」ノ長サヲ有スル最大ノ堅面著陸區域ト爲ル様改良セララルモノトス乘客及貨物搬送所、保全、運航及通信ノ施設ハ各飛行場ニ於テ之ヲ利用シ得ルモノトス一切ノ日本國航空機裝置ハ追テ訓令アル迄保護セララルモノトス使用可能ナル一切ノ種類ノ運輸用及保全用裝置及各種設備ノ完全ナル目錄ハ之ヲ種類別及區域別ニ作成シ要求アリタルトキ聯合國軍代表者ニ提示スルモノトス

第五部 雜則
 一 日本國大本營ハ裝置及操作員ヲ有スル完全ナル無線電寫眞及普通寫眞實驗所ヲ聯合國最高司令部通信部長ヲシテ東京區域ニ於テ直ニ利用シ得ルモノトス
 二 日本國大本營ノ適當ナル代表者ハ利用シ得ル撮影員、裝置、處理濟

0022

及未處理ノ「フィルム」竝ニ空中及地上寫眞用「フィルム」及印畫紙ノ閱覽室ニ關スル充分ナル情報ヲ携ヘ四十八時間以内ニ聯合國最高司令部通信部長ノ許ニ出頭スルモノトス此等ハ爾後要求ニ應ジテ利用シ得ルモノトス

三 氣象情報ノ蒐集、頒布及記錄ニ從事スル非軍事及軍事ノ一切ノ機關ハ追テ訓令アル迄平常ノ作業ヲ繼續スルモノトス一切ノ氣象資料(データ)ノ綴込及一切ノ裝置ハ現狀ノ儘保存セララルモノトス一切ノ測候施設ニ付國際索引番號、地理的位置及種類(豫報、調査、中央又ハ觀測)ヲ示ス位置表ハ之ヲ遲滞ナク聯合國最高司令部ニ提出スルモノトス

四 日本帝國政府ハ聯合國最高司令部軍醫長ニ對シ遲滞ナク左ノ情報ヲ提供スベシ
 イ 主要ナル職員、機關及施設ノ表ヲ付シタル施行中ノ公衆衛生措置ノ網羅的記述
 ロ 流行中ノ傳染病ノ性質、發生場所及重大性(施行中ノ防護措置ヲ含ム)
 ハ 藥品、醫藥及他ノ衛生用品ノ最近報告セラレタル狀況
 ニ 一切ノ非軍用病院、療養所及他ノ醫療施設ニ付位置及病床收容力ヲ示ス表
 五 日本語以外ノ言語ニ依ル一般ニ對スル情報ノ爲ノ音譯放送ハ直ニ中止セララルモノトス

聯合國最高司令部命ニ依リ
 參謀長、合衆國陸軍中將
 アール、ケ、サザランド
 配布先

指令第二號附屬書「乙」
 一 左記附屬書「乙」ハ茲ニ指令第二號ニ附屬セシメラレ右指令ト同一ノ效力ヲ有シ且其ノ一部ト爲ルベシ
 二 「ガラム」島ニ司令部ヲ有スル合衆國太平洋艦隊最高司令部ハ指令第二號第二部(二)ノ意義ニ於ケル聯合國最高司令部ノ海軍代表者ニ指名セラレタリ合衆國太平洋艦隊最高司令部ヲ代表スル海軍連絡團ハ聯合國最高司令部内ニ設置セラレ該連絡團ノ先任將校ハ日本帝國海軍軍令部ノ隊長及代表者トノ地方的且個人的連絡ニ當ルモノトス
 三 日本帝國大本營ハ日本帝國陸軍ニ付指令第二號第二部ニ掲ゲラルル所ト對應スル如ク日本國ニ於ケル日本帝國海軍組織ノ境界ヲ遲滞ナク調整スルモノトス日本帝國大本營ハ斯ク指定セラレタル區域ノ海軍指揮官ニ對シ右區域内ニ在ル日本帝國陸軍司令部ノ先任指揮官方合衆國第六軍及第八軍ノ指揮官ニ連絡スルコトヲ命ゼラレ居ル如ク合衆國第三艦隊及第五艦隊指揮官ニ連絡スルコトヲ命ズルモノトス
 合衆國第十軍區域及合衆國第二十四軍區域ト對應スル日本國海軍區域ニ於テハ其ノ日本國海軍指揮官ハ夫々合衆國第五艦隊及第七艦隊ノ指揮官ニ連絡スルモノトス合衆國第三艦隊、第五艦隊及第七艦隊ノ指揮官ハ指令第二號第二部(二)ノ意義ニ於ケル聯合國最高司令部ノ海軍代表者ト看做サル

四 一切ノ日本國商船ニシテ噸數百噸ヲ超ユルモノノ行動ハ聯合國最高司令部ノ監督ヲ受クルモノトス日本帝國政府及日本帝國大本營ハ全員乘組ミタル右船舶ヲ、其ノ行動ノ指揮及監督ニ任ズル合衆國太平洋艦隊最高司令部(又ハ其ノ指名スル代表者)ニ報告スルモノトス

指令第三號
 千九百四十五年九月二十二日
 聯合國最高司令部
 一、總則 日本帝國政府ハ茲ニ本指令ニ掲グル聯合國最高司令部ノ要求ニ付場合ニ應ジ自ラ之ニ從ヒ又ハ之ニ應ゼシムル様保證スルコトヲ指令セラレ
 二、經濟統制
 (イ) 日本帝國政府ハ賃銀及主要商品ノ價格ニ付確固タル統制ヲ設定シ及維持スベキ責任ヲ負フ
 (ロ) 日本帝國政府ハ供給不足ノ主要商品ノ公正ナル分配ヲ保證スル爲此等ノ商品ノ嚴重ナル割當ヲ設定シ及維持スベキ責任ヲ負フ
 (ハ) 日本帝國政府ハ最高司令部ニ對シ本指令接受後十日以内ニ(イ)及(ロ)ニ掲ゲラレタル目的ヲ有スル現存經濟統制機構及手續ニ關スル一切ノ詳細ヲ報告スベシ右報告ニハ賃銀表及供給不足ノ主要商品ノ割當量ニ關スル資料ヲ含マシムベシ右ノ如キ經濟統制措置方現ニ如何ニ運用セラレツアリヤ而シテ若シ何等不十分ノ點アリトセバ其ノ理由如何ニ關スル陳述ヲ含マシムベシ
 三、生産
 (イ) 日本帝國政府ハ工業、農業及漁業生産品ヲ含ム一切ノ主要消費者商品竝ニ右ノ如キ主要消費者貨物ノ生産ニ必要ナル商品ヲ直ニ最大限度迄生産スル様刺戟シ及獎勵スベシ原料、燃料、施設及勞

RA'-0008

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

働ノ制當ニ當リテハ住民ノ食、衣及住ニ必要ナル商品ノ生産ニ優先順位與ヘラルベシ

從前下記四ニヨリ禁止セラルル品目ノ生産ニ從事シ居リタル工場ヲ主要消費者商品ノ生産ニ轉換セシムルノ要ヲ認ムル場合ニ於テハ日本帝國政府ハ各該工場ニ付個別的ニ轉換ノ願書ヲ提出スベシ

- 四、禁止品目
- 次ノ種類ノ品目ノ生産ハ許可セラレズ
- (イ) 武器、彈藥又ハ戰爭用具
 - 必要ト認メララル工業用爆藥ノ使用又ハ製造ニ付キテハ其ノ必要缺クベカラザルコト及其ノ分配及使用ノ統制方法ニ關スル完全ナル説明資料ヲ附シテ願書ヲ提出スベシ
 - (ロ) 武器、彈藥又ハ戰爭用具ノ生産ニ使用スル爲ニ特ニ設計シ又ハ生産セラルル部分品、組成品又ハ成分
 - (ハ) 戰用海軍艦艇
 - (ニ) 民間用トシテ設計セラレタルモノヲ含ミ一切ノ型式ノ航空機
 - (ホ) 一切ノ型式ノ航空機ノ生産ニ使用スル爲ニ特ニ設計シ又ハ生産セラルル部分品、組成品及材料
- 五、日本帝國政府ハ點檢並ニ本司令部ニ依リ指示セラルベキ處分ヲ受ケル爲本指令ノ四、ニ掲ゲラレタル品目ノ何レカ又ハ左ニ掲ゲル品目ノ何レカヲ製造シ居リタル日本帝國政府又ハ私有工業會社並ニ商會及研究團體ノ工場、設備、特許及其ノ他ノ財産並ニ一切ノ書籍、記録及文書ヲ良好ナル状態ニ於テ保存シ及維持スベシ
- (イ) 鐵及鋼
 - (ロ) 化學製品

- (ハ) 非鐵材料
 - (ニ) 「アルミニウム」
 - (ホ) 「マグネシウム」
 - (ヘ) 合成纖維
 - (ト) 人造石油
 - (チ) 工作機械
 - (リ) 「ラジオ」及電氣器具
 - (ヌ) 自動車類
 - (ル) 商船
 - (ヲ) 重量機械及其ノ重要部品
- 日本戰爭努力ニ貢獻シ又ハ日本經濟ニ必須ナリシ會社、組合又ハ「カルテル」ニ付テモ右ニ同ジ
- 六、商品目録及記録要求
- 日本帝國政府ハ出來得ル限り速ニ本司令部ニ對シ本指令四、及五ニ掲ゲラレ居ル生産物ヲ現ニ生産シ居リ又ハ生産セントシ居ル主ナル工場ノ商品目録ヲ提出スベシ
- 右商品目録ハ工場ノ狀況附屬品及能力並ニ燃料手持高、原料、完成品及製造過程ニアル商品ヲ具體的ニ示ス詳細ナル報告ヲ含ムベシ
- 七、輸入及輸出 本司令部ノ事前承認ナキ限り日本ヨリ又ハ日本ヘノ如何ナル製品、商品ノ輸出入ヲモ許可セズ
- 八、(イ) 日本帝國政府ハ一切ノ實驗所、研究所並ニ同種ノ科學及技術機關ニ付左記情報ヲ含ム報告書ヲ提出スベシ
- (1) 名稱
 - (2) 位置
 - (3) 所有者

- (4) 施設ノ説明
 - (5) 使用人數
 - (6) 現在此等ノ機關ニ依リ研究セラレ居ル一切ノ企畫及一九四〇年以降研究セラレタル企畫ニ關スル詳細ナル表
 - (ロ) 日本帝國政府ハ此等機關ニ對シ正當ナル權限ヲ有スル聯合軍代表ノ觀察ニ當ニ應ズル様指令スベシ
 - (ハ) 日本帝國政府ハ此等機關ニ對シ毎月一日現在ヲ以テ前月中ニ當該機關ノ施設及所屬員ガ其ノ爲ニ使用セラレタル諸企畫及其ノ業績ヲ詳細ニ陳述セル報告書ヲ中央連絡事務局ヲ通ジテ本司令部ニ提出スル様指令スベシ
 - (ニ) 日本帝國政府ハ「ウラニウム」ヨリ「ウラニウム」二三五ノ大量分離ヲ來サシムルカ又ハ如何ナル他ノ電波活動上ノ不安定要素ノ大量分離ヲ來サシムルコトヲ目的トスル一切ノ研究又ハ實驗作業ヲ禁止スベシ
- 九、本指令ニ於テ要請セラルル一切ノ報告書ハ英語ヲ以テ縦十一吋横八吋半ノ白紙ニ「タイプ」シタルモノヲ五部提出セラルベシ

- モ執ルル内容ニ依リ特定ノ法令ヲ公布スルヲ要スルモノト思考ス
- 二、指令ノ内容
1. 本指令ハ第一章總則ニ於テ
- (一) 本指令ノ掲ゲル要求ニ對シ日本帝國政府及日本帝國大本營ハ自ら之ニ從フト共ニ軍官民ヲシテ之ニ對應スル措置ヲ執ラシムル様處理スルノ義務ヲ負擔セシメラレシコト
 - (二) 本指令ノ適用對象ヲ米國軍ノ管轄區域内ニ在ル日本軍日本國ノ支配下ニ在ル軍隊及行政官廳トセルコト
 - (三) 本指令ノ目的ガ占領軍ノ駐屯ヲ迅速且秩序アラシムルコト及日本軍武裝解除及後員ノ監視ニアルコト
 - (四) 本指令ノ正文ハ英文ニシテ疑義發生ノ場合ハ發令者ノ解釋ヲ最後のモノトスルコト
 - (五) 本指令ノ時間的制限ハ本指令ガ帝國大本營ニ依リ受領セラレタル時ヨリ起算スルコト
- 等ヲ主要事項トシテ規定シ居レリ其ノ他「日本國軍隊」及「聯合國代表」ノ意義ヲ確定ス
2. 第二章日本國軍隊ニアリテハ概ネ日本國軍隊ノ組織情報ノ提供武裝解除及動員解除ノ方法其他軍事情報ノ提供等ヲ要求シ居ルガ特ニ帝國政府ニ對シ要求セル事項ヲ舉ゲバ左ノ如シ
- (イ) 商船及其ノ他船舶ノ乘組員ハ聯合國代表ノ指定シタル任務遂行ニ付別段ノ要請ヲ受ケタル場合ヲ除キ進テ指示アル迄船上ニ止ルコト(第九項)
 - (ロ) 日本支那滿洲日本軍占領地域ノ地圖測量資料ノ提出(第十一項)
 - (ハ) 對外國無線電氣通信施設ニ關スル情報ノ提供對内外電氣通信施設ノ現狀維持及操作ノ履行必要ノ場合聯合國最高司令官代表ニ依ル右施設ノ檢閲及監督聯合國通信部長ト通信機關代表者トノ連絡(第十五項)
 - (ニ) 一切ノ市町村ノ名稱ヲ右市町村ヲ結テ幹線路上入口及停車場ヲラツトフォーム」ニ英字ヲ以テ掲ゲルコト(第十七項)
- 第三章ニ於テハ聯合國俘虜及被拘留者ノ取扱ニ關シ規定ス
- イ、「俘虜」ノ定義ヲ規定セル中世テ俘虜トシテ日本ノ收容下ニ置カレタルモノ日本ニ於テ又ハ日本ニ依ル軍備ヲ條件トシテ俘虜ノ身分ヨリノ釋放ヲ承認シタル者ヲ除外シ居ルハ印度假政府軍ビルマ軍南京政府ニ屬セル支那軍

「參考」 指令第二號ノ解説

一、指令ノ性質

本指令ノ性質ハ一般命令第一號ノ如ク日本帝國政府及日本帝國大本營ニ對シ執ルベキ措置ヲ指令シ來ルモノニシテ直接一般日本國民ニ對スルモノニ非ズ但シ一般命令ノ如ク其ノ布告ヲ要求シ居ラザルニ付之ヲ當報ニ布告スルノ要ナキ

參謀總長

米國陸軍中將「アル・ケイ・サザランド」
關係 保官「ハロルド・フエヤ」署名
(米國陸軍副官「ビー・エム・フィッチ」代
替ニ代リ)

0023

RA'-0008

0023

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

等二屬セルモノヲ指セルモノヲ認メラル(第一項イノ四)
 ロ、日本帝國政府ニ對シテ四十八時間以内ニ被抑留者收容所長ニ對シテ訓示ヲ指示シテ來レドト(第三項)右訓令收容所長ニ被抑留者ニ對シテ讀ミ上グベキ文書ニ「日本國ノ聯合國ニ對シテ正式降伏」ナル字句アルハ注意ヲ要ス又指定セラレタル被抑留者ヲ收容所ノモノヲ監督センムルノ措置ヲ命ジ居レド

4. 第四章資源義務住居ニ於テ本指令ハ帝國政府ノニ對シテ要求ヲナシ居レルガ之等ノ事項ハ何レモ直接一般國民ニ關係スル所甚大ナリ

イ、資源

總則ニ於テ一切ノ地方ノ資源ヲ聯合國占領軍ノ處分ニ委ヌベシト規定シ占領軍ハ一切ノ資源ヲ自由ニシ得ル廣汎ナル意義ヲ有ス斯クテ聯合國占領軍ノ使用ニ供スルタメ食料、衣料、燃料等ノ物資源ハ勿論アラユル資源ノ處分ヲ占領軍ニ委ヌル結果ヲ生ズト解セラレザルニ非ズ然レドモ右ハ占領軍ガ地方民ノ利益ヲ顧慮セス地方ノ資源ヲ全ク自己ノ自由ナル支配ノ下ニ置カントスルニハ非ズシテ占領軍ノ維持ニ必要ナル範圍ニ於テ使用セントスルモノナリ

五、降伏後ニ於ケル米國ノ初期ノ對日方針(假譯)

以下ハ降伏後ノ日本ニ對スル初期ノ全般ノ政策ニ關シ國務省、陸軍省及海軍省ニ依リ共同ニ作成セラレ九月六日大統領ノ承認ヲ得タル聲明ナリ、本文書ノ概要ハ八月二十九日「マガクアサー」元帥ニ對シテ書信ヲ以テ傳達セラレ九月六日大統領ノ承認ヲ經テ後傳書使ニ依リ同元帥ニ送付セラレタリ

本文書ノ目的

本文書ハ降伏後ノ日本ニ對スル初期ノ全般ノ政策ニ關スル聲明ナリ本文書ハ大統領ノ承認ヲ經テ後ニシテ聯合國最高司令官及米國內關係各

省及機關ニ對シテ指針トシテ配布セラレタリ、本文書ハ日本占領ニ關スル諸問題中政策決定ヲ必要トスルモノヲ網羅シ居ラス本文書ニ含まレス又ハ充分盡サレ居ラサル事項ハ既ニ別個ニ取扱ハレ乃至ハ將來別個ニ取扱ハルヘシ

第一部 究極ノ目的

日本ニ關スル米國ノ究極ノ目的ニシテ當初ノ時期ニ於ケル政策力達フベキモノ左ノ如シ

A 日本カ再ヒ米國ノ脅威トナリ又ハ世界ノ平和ト安全ノ脅威トナルコトナキ様保證スルコト

B 他國家ノ權利ヲ尊重シ聯合國憲章ノ理想ト原則ト示サレタル米國ノ目的ヲ支持スヘキ平和的且責任アル政府ヲ追テ樹立スルコト、米國ハ斯ル政府力出來得ル限り民主主義的自治ノ原則ニ合致スルコトヲ希望スルモ自由ニ表示セラレタル國民ノ意思ニ支持セラレサルカ如キ政體ヲ日本ニ強要スルコトハ聯合國ノ責任ニアラス

此等ノ目的ハ左ノ如キ主要手段ニ依リ達成セラレハシ

A 日本ノ主權ハ本州、北海道、九州、四國並ニ「カイロ」宣言及米國力既ニ參加シ又ハ將來參加スルコトアルヘキ他ノ協定ニ依リ決定セラレハキ重要ナラサル附近島嶼ニ限ラルヘシ

B 日本ハ完全ニ武装解除セラレ且非軍國主義化セラレハシ、軍國主義者ノ權力ト軍國主義ノ影響力ハ日本ノ政治、經濟及社會生活ヨリ一掃セラレハシ、軍國主義及侵略ノ精神ヲ表示スル制度ハ強力ニ抑壓セラレハシ

C 日本國民ハ個人ノ自由並ニ基本的人權ノ尊重特ニ信教集會言論出版ノ自由ニ對スル欲求ヲ増大スル様獎勵セラレハキ且民主主義的及代議的組織ヲ形成ヲ獎勵セラレハシ

D 日本國民ハ平時ニ要求スル得ルカ如キ經濟ヲ自力ニ依リ發達セシムヘキ機會ヲ與ヘラルヘシ

第二部 聯合國ノ權力

1. 軍事占領

降伏條項ヲ實施シ更ニ上述ノ究極目的ノ達成ヲ促進スル爲メ日本本土ハ軍事占領セラヘシ右占領ハ日本ト戰爭状態ニ在ル聯合國ノ利益ノ爲行動スル主要聯合國ノ爲ノ軍事行動タルノ性質ヲ有スヘシ右ノ理由ニ因リ對日戰爭ニ於テ指導的役割ヲ演シタル他ノ諸國ノ軍隊ノ占領ヘノ參加歡迎セラレ且期待セラレルモノ占領軍ハ米國ノ指定スル最高司令官ノ指揮下ニアルモノトス

日本ノ占領及管理ノ施行ニ關シ充分協議ヲ行フト共ニ適當ナル諸國機關ヲ設ケテ主要聯合國ヲ満足セシムベキ政策ヲ樹立スル様有ラユル努力ヲ盡スヘキモ萬一主要聯合國ニ意見ノ不一致ヲ生シタル場合ニ於テハ米國ノ政策ニ從フモノトス

2. 日本政府トノ關係

天皇及日本政府ノ權力ハ降伏條項ヲ實施シ日本ノ占領及管理ノ施行ノ爲樹立セラレタル政策ヲ實行スル爲必要ナル一切ノ權力ヲ有スル最高司令官ニ歸屬スルモノトス

日本社會ノ現在ノ性格並ニ最小ノ兵力及資材ニ依リ目的ヲ達成セントスル米國ノ希望ニ鑑ミ最高司令官ハ米國ノ目的達成ヲ満足ニ促進スル限リニ於テハ、天皇ヲ含ム日本政府機關及諸機關ヲ通シテ其權力ヲ行使スヘシ日本政府ハ最高司令官ノ指示ノ下ニ國內行政事項ニ關シ通常ノ政治機能ヲ行使スルコトヲ許容セラレヘシ但シ右方針ハ天皇又ハ他ノ日本ノ機關力降伏條項實施上最高司令官ノ要求ヲ満足ニ果ササル場合最高司令官カ政府機構又ハ人事ノ變更ヲ要求シ乃至

ハ直接行動スル權利及義務ノ下ニ置カルモノトス尙右方針ハ最高司令官ヲシテ米國ノ目的達成ヲ日途スル前進的改革ヲ抑ヘテ天皇又ハ他ノ日本ノ政府機關ヲ支持セシムルモノニアラス即チ右方針ハ現在ノ日本統治形式ヲ利用セントスルモノニシテ之ヲ支持セントスルモノニアラス封建的又ハ權力主義的傾向ヲ修正セントスル統治形式ノ變更ハ日本政府ニ依リト日本國民ニ依リト問ハス許容セラレ且支持セラレハシ斯ル變更ノ實現ノ爲日本國民又ハ日本政府力其ノ反對者抑壓ノ爲強力ヲ行使スル場合ニ於テハ最高司令官ハ麾下ノ部隊ノ安全並ニ占領ノ目的達成ヲ保障スルニ必要ナル限度ニ於テ之ニ干渉スルモノトス

3. 政策ノ弘布

日本國民及世界一般ハ占領ノ目的及政策並ニ其ノ達成上ノ進展ニ關シ詳細ナル情報ヲ與ヘラルヘシ

第三部 政治

一、武装解除及非軍國主義化

武装解除並ニ非軍國主義化ハ軍事占領ノ主要任務ニシテ即時且斷乎トシテ實行セラレベシ、日本國民ニ對シテハ其ノ現在及將來ノ苦境招來ニ關シ陸海軍指導者及其ノ協力者カ爲シタル役割ヲ徹底ニ知ラシムル爲一切ノ努力カ行ハルヘシ、

日本ハ陸海空軍、秘密警察組織又ハ何等ノ民間航空ヲ保有スルコトナシ日本ノ地上、航空並ニ海軍兵力ハ武装ヲ解除セラレ且解體シ、日本大本營、參謀本部(軍令部)及凡テノ秘密警察組織ハ解消セシメララヘシ、陸海軍資材、陸海軍艦船、陸海軍施設及陸海軍民間航空機ハ引渡サレ且ツ最高司令官ノ要求スル所ニ從ヒ處分セラレハシ

日本大本營及參謀本部(軍令部)ノ高級職員、日本政府ノ其他ノ陸海

0024

RA'-0008

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

軍高級職員、其他ノ國家主義的或ハ軍國主義的組織ノ指導者其他ノ軍國主義的或ハ侵略ノ重要ナル代表人物ハ拘禁セラレ、將來ノ處分ノ爲留置セラレベシ、軍國主義或ハ好戰的國家主義ノ積極的の代表人物タリシ者ハ公共的職務或ハ公的又ハ重要ナル私的責任アル如何ナル地位ヨリモ排除セラレベシ、極端ナル國家主義的又ハ軍國主義的ノ社會、政治職業或ハ商業上ノ團體及機關ハ解消セラレベシ

理論上或ハ實踐上ノ軍國主義及極端ナル國家主義(軍事教育ヲ含ム)ハ教育制度ヨリ除去セラレベシ、嘗テ陸海軍ノ職業的將校或ハ下士官タリシ者其他軍國主義或ハ極端ナル國家主義ノ代表人物タリシ者ハ凡テ監督的及教育的地位ヨリ排除セラレベシ

領軍ノ安全ヲ保持スル必要ニ依リ制限セラレベシ

人種、國籍、信教又ハ政治的見解ヲ理由ニ差別待遇ヲ規定スル法律、命令及規則ハ廢止セラレベシ又ハ本文書ニ述ヘラレタル諸目的或ハ諸政策ト矛盾スルモノハ廢止、停止又ハ所要程度ニ修正セラレベシ、此等諸法規ノ實施ヲ特ニ其ノ任務トスル諸機關ハ廢止又ハ適宜改組セラレベシ、政治的の理由ニヨリ日本當局ニヨリ不法ニ監察セラレ居ル者ハ釋放セラレベシ

司法、法律及警察組織ハ第三部一及二ニ於テ揭ケラレタル諸政策ニ適合セシムル爲出來得ル限リ速ニ改革セラレルベク爾後個人ノ自由或ハ民權ヲ保護スル樣進歩的ニ指導セラレベシ

最高司令官又ハ適當ナル聯合國機關ニヨリ戰爭犯罪人トシテ告發セラレタル者(聯合國俘虜又ハ其ノ國民ヲ虐待セル者、ヨリ告發セラレタル者ヲ含ム)ハ逮捕セラレ裁判ニ付サレ有罪ノ判決アリタル時ハ處罰セラレベシ、聯合國中ノ他ノ國ヨリ其ノ國民ニ對スル犯罪ヲ理由ニ要求セラレタル者ハ最高司令官ニヨリ裁判ノ爲又ハ證人トシテ或ハ其他ノ理由ニ依リ必要トセラレザル限リ當該國ニ引渡シ拘禁セラレベシ

三、個人ノ自由及民主主義過程ノ要求ノ獎勵

宗教的信仰ノ自由ハ占領ト共ニ直ニ宣言セラレヘシ同時ニ日本人ニ對シ極端ナル國家主義的或ハ軍國主義的組織及運動ハ宗教ノ外被ノ際ニ隠ルルヲ得サル旨明示セラレヘシ、日本國民ハ米國及其他ノ民主主義國家ノ歴史、制度、文化及成果ヲ知ル機會ヲ與ヘラレ且ツ其ノ事ヲ獎勵セラレヘシ、占領軍人員ノ日本人トノ交渉ハ所要ノ限度ニ於テモ占領政策或ハ占領目的ヲ促進スル爲統制セラレベシ

集會及公開言論ノ權利ヲ保有スル民主的政黨ハ獎勵セラレベシ但シ占

一、經濟上ノ非軍事化

日本軍力ノ現存經濟基礎ハ破壞セラレ且ツ再興ヲ許與セラレザルヲ要ス從テ先ツ下記諸項ヲ含ム計畫力實施セラレベシ

○各種ノ軍力又ハ軍事施設ノ裝備、維持又ハ使用ヲ目的トスル一切ノ物資ノ生産ノ即時停止及將來ニ於ケル禁止

○海軍艦船及一切ノ形態ノ航空機ヲ含ム諸般ノ戰爭手段ノ生産又ハ修理ノ爲一切ノ專門的施設ノ禁止

○隱蔽又ハ偽裝軍備ヲ防止スル爲日本ノ經濟活動ニ於ケル特定部門ニ對スル監察管理制度ノ設置

○日本ニトリ其價値力主トシテ戰爭準備ニ在ル如キ特定諸産業乃至生産部門ノ除去

○戰爭遂行力増進ニ指向セラレタル專門的研究及教育ノ禁止

○將來ノ平和的需要ノ限度ニ日本重工業ノ規模及性格ヲ制限スルコト

○非軍事化目的達成ニ必要ナル範圍ニ日本商船ヲ制限スルコト

本計畫ニ從ツテ廢止セラレヘキ日本ノ現存生産設備ノ終局的處分ニ關シ、用途轉換、外國ヘノ搬出、又ハ屑鐵化ノ何レトスヘキハ目録作成(「インベントリー」)後決定セラレベシ、右決定ニ至ル迄ノ間ニ於テハ容易ニ民需生産ニ轉換シ得ル諸設備ハ非常ノ場合ヲ除キ破壊セラレベカラズ

從來ノ日本ノ政策ハ日本國民ニ經濟上ノ大破壞ヲ齎シ且日本國民ヲ經濟上ノ困難ト苦惱ノ見透シニ直面セシムルニ至レリ

日本ノ現在ノ狀態ハ日本自ラノ行爲ノ直接ノ結果ニシテ聯合國ハ其ノ蒙リタル損害復舊ノ重荷ヲ負ハサルベシ

之ガ復舊ハ唯日本國民ガ一切ノ軍國主義的の目的ヲ放棄シ欣然且專心平和の生産様式ニ立向フ曉ニ於テノミ實現セラレベシ、日本ハ物質的再建ニ着手スルト共ニ其ノ經濟活動及經濟上ノ諸機構ヲ徹底的ニ改革シ且日本國民ヲ平和ヘノ線ニ沿ヒ有益ナル職業ニ就カシムルコト必要ナリ聯合國ハ適當ナル期間内ニ右諸措置力實現サルコトヲ妨ケルコトアルヘキ條件ヲ課セントスル意圖ナシ

占領軍ノ必要トスル物資及労働ノ調達ニ關シテハ之ガ爲飢餓、疫病ノ流行及甚シキ生理上ノ困難ヲ生セサル程度ニ於テ日本ガ調達センコトヲ期待ス

日本當局ニ對シテハ左ノ目的ニ役立つ計畫ヲ續行、着手、實施スルコトヲ期待スルモノニシテ必要アル場合ニ於テハ之ヲ命令スベシ

A 甚シキ經濟上ノ苦難ヲ避ケルコト

B 入手シ得ル物資ノ公正ナル配給ヲ確保スルコト

C 聯合國政府間ニ協定セラレル賠償引渡ノ要求ニ應ズルコト

D 日本國民ノ平和的需要ヲ適度ニ充シ得ル如ク日本經濟ノ再建ヲ促進スルコト

右ニ關シ、本當局ハ自己ノ責任ニ於テ必須國家公共事業、財政、銀行、必需物資ノ生産及分配等ヲ含ム經濟活動ノ管理ヲ實施スルコトヲ許サルヘシ

二、賠償或ハ返還

日本ノ侵略ニ對スル賠償方法ハ左ノ如シ

1. 賠償

A 日本ノ保持スル領域外ニ在ル日本財産ヲ關係聯合國當局ノ決定ニ從ヒ引渡スコト

B 平和的の日本經濟乃至占領軍ニ對スル補給ノ爲必要ナルサナル物資、現存資本設備及施設ヲ引渡スコト

尙賠償決定ニ於テ輸出指令セラレタルモノ乃至ハ原所有主ヘノ返還ノ爲輸出指令セラレタルモノノ他荷受主カ所要ノ交換的輸入ノ提供ニ同意乃至ハ外國爲替ニヨル支拂ニ同意スル場合ニノミ國外輸出ヲ許容ス、日本ノ非軍事化計畫(「デミリタリゼーション」)ト矛盾シ若クハ之ニ支障ヲ來スカ如キ種類ノ賠償ヲ強要スルコトナカルヘシ

2. 返還

略奪セル財産ハ略奪品ナルコト判明スル限リ一切之ヲ完全且即時ニ返還スルヲ要ス

三、財政、貨幣並ニ銀行政策

日本當局ハ最高司令官ノ同意及監督ノ下ニ依然國內ノ財政、貨幣並ニ信用政策ノ管理及指導ノ責任ヲ保持スベシ

四、國際通商及金融關係

日本ハヤカテハ諸外國トノ正常ナル通商關係ノ再開ヲ許容サルベキモ占領期間中ハ適當ナル統制ノ下ニ外國ヨリ平和的のナル目的ノ爲ニ必要

正誤表

二十四頁上段第五行及第六行ニ挿入

二、民主主義勢力ノ助長

民主主義の基礎ニ基キ組織セラレタル労働、生産業及農業部内ノ諸組織ノ發展ハ之ヲ奨励支持スベシ、生産及商業手段ノ所有權及之ガ收入ヲ廣範圍ニ分配スルコトヲ得シムル諸政策ハ支持スベシ、日本國民ノ平和的傾向ヲ強化シ且經濟活動ヲ軍國主義的目的ノ爲ニ支配乃至指導スルコトヲ困難ナラシムルト認メラルル經濟活動ノ各形態、組織及指導者ハ之ヲ支持スベシ。

右目的ノ爲最高司令官ハ左ノ如キ政策ヲ執ルベシ

A 平和目的ノミヲ指シテ將來ノ日本ノ經濟活動ヲ指導セザル者ハ之ヲ經濟界ノ重要ナル地位ニ留メ又ハ斯カル地位ニ選任スルコトヲ禁止スルコト

B 日本ノ商工業ノ大部分ヲ支配シ來リタル産業上及金融上ノ大「コンビネーション」ノ解體ヲ支持スベキコト

三、平和的經濟活動ノ再開

誤

二十四頁下段 四行 二、賠償並ニ返還

同 同 二十行 三、財政、貨幣並ニ銀行政策

同 同 二十三行 四、國際通商及金融關係

二十五頁上段 八行 五、在外日本資産

同 同 十三行 六、日本國內ニ於ケル外國企業ニ對スル機會均等

同 同 十七行 七、皇室ノ財産

正

四、賠償並ニ返還

五、財政貨幣並ニ銀行政策

六、國際通商及金融關係

七、在外日本資産

八、日本國內ニ於ケル外國企業ニ對スル機會均等

九、皇室ノ財産

トスル原料並ニ他ノ商品ヲ購入スルコト並ニ許容セラレタル輸入ノ支拂ヲナス爲ノ商品輸出ヲ許可セラルベシ

一切ノ商品輸出入ハ外國爲替及金融取引ニ對シ統制ヲ維持スベキ處右統制實施ノ爲ニ執ルベキ政策及實際ノ統制運営ハ何レモ右諸取引カ占領軍當局ノ政策ニ違反セス且特ニ日本ノ獲得スル一切ノ對外購買力ガ日本ノ缺クベカラザル必要ノ爲ニノミ利用サルコトヲ確實ナラシメル爲最高司令官ノ承認及監督下ニ置カレルベシ

五、在外日本資産
日本ノ在外資産及降伏條件ニ依リ日本ヨリ分離セシメラレタル地域ニ在ル日本ノ資産ハ全部乃至一部皇室並ニ政府ノ所有ニ屬スル資産モ含メ占領軍當局ニ明示セラレ且聯合國當局ノ決定ニ依ル處分ニ委ネラルベシ

六、日本國內ニ於ケル外國企業ニ對スル機會均等
日本當局ハ自ラ若クハ日本ノ産業組織ヲ通シ如何ナル外國ノ企業ニ對シテモ排他的乃至優先的機會乃至條件ヲ與ヘサルベク又外國企業ニ對シ經濟活動ノ如何ナル重要ナル部門ノ統制權ヲモ讓渡セザルベシ

七、皇室ノ財産
皇室ノ財産ハ占領ノ諸目的達成ニ必要ナル措置ヨリ免除セララルコトナカルベシ

0027

RA'-0008

0032

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan